

ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 38



2005

沖縄県立博物館

表紙：新垣 栄一 作 鉛油刷目貼付山水徳利

新垣栄一（1925～2003）は、5代目として家業をつぎ、昭和16年から焼物の世界に進んでいる。特に袋物、花瓶、日用雑器作りに優れ、飾付けの仕上げの丁寧さに目を見張る技術が現れている。昭和51年に通産省より上焼轆轤で伝統芸能工芸士に認証された。

(寄贈：宮里 栄徳 氏)

序

沖縄県立博物館は、総合博物館として広い分野にわたる資料の収集や保管、展示等を行い、教育普及活動や展示会をとおして様々な情報を発信し、さらに県民のみなさまに親しんでいただけるような博物館づくりに努めて参りました。

昨年度は、兵庫県立博物館が所蔵する資料を中心とした特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～」を開催いたしました。昔懐かしのおもちゃや児童関係の資料とともに、戦前の手まりや琉球張り子など沖縄に関する資料も合わせて紹介した展示会でした。企画展としては、「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」を開催いたしました。昨今の沖縄では、外来種の影響により、絶滅が危惧されている生き物たちへの被害が拡大している状況です。これらの問題に対して私たちはどうすべきなのかを考える機会となった展示会になりました。その他に、北大東村での移動博物館や、博物館の活動や博物館新館を広報するパネル展、県民からの要望による「沖縄歴史を綴る秘宝展」も開催いたしました。

また、博物館の活動を支える大きな柱として教育普及活動があり、これまでも博物館に求められる多くのニーズに応えるべく、様々な活動を行って参りました。昭和49年から始まった博物館文化講座は、昨年9月に第350回という節目を迎えました。また、「総合的な学習の時間」の導入にともなう教育現場や児童生徒への支援、体験学習や博物館の講堂を利用した博物館シアターへもたくさんのご参加をいただき、県民の皆さんと一緒にふれあう多くの機会を持つことができました。

当博物館は、昭和41年に現在の旧中城御殿の場所に開館し、今年で39年目となります。しかし、収蔵資料の増加による収蔵庫の不足などの理由により、「復帰30周年記念事業」として、現在の博物館は平成19年度に那覇市おもろまちで新館として開館いたします。昨年度には起工式も執り行われ、建設も着々と進行しており、今後は新館の開館に向けた移転準備のため、現在地での博物館活動は今年度までとなります。しかし、新館でも博物館の活動や施設等のさらなる充実を図り、皆さんにとってさらに開かれ親しみを持っていただけるような博物館として活動して参りたいと存じます。

今後ともより一層のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成17年6月

沖縄県立博物館
館長名 嘉政修

目 次

序	
I 概 要	
1 沿革	1
2 日誌抄	3
3 施設・設備	5
4 組織	7
5 沖縄県立博物館協議会	9
6 予算	10
II 入館者数	
1 入館者数	11
2 県内外児童生徒学生団体見学者	14
III 調査研究等の活動	
1 調査研究の概要	16
2 博物館総合調査	16
3 調査研究	17
4 講演等	20
5 著作論文等	20
6 職員研修	20
IV 展示活動	
1 展示活動の概要	21
2 常設展	21
3 特別展	23
4 企画展	27
5 移動博物館	36
V 教育普及活動	
1 教育普及活動の概要	41
2 博物館文化講座	41
3 衛星通信を利用したエル・ネット	44
4 博物館シアター	45
5 博物館体験学習教室	46
6 ボランティア活動	51
7 支援活動	52
VI 博物館学芸員実習	53
VII 資料の収集・保存管理	
1 収蔵資料現在高	55
2 平成16年度新収蔵資料高	55
3 平成16年度新収蔵資料目録	56
4 所蔵の指定文化財	58
5 博物館展示資料整理事業	59
6 博物館新館移転資料整理事業	60
7 修理事業	61
8 化石資料受入事業	62
9 資料貸出	63
10 燻蒸処理	64
VIII 新館展示調査等	65
IX 刊行物	66
X その他の活動	
1 沖縄県博物館協会	67
2 沖縄県立博物館友の会	68
XI 関係法規抄録	70

I. 概要

1. 沿革 〔前史〕

昭和11年（1936）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用した「郷土博物館」が創設されるが、昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月、米国海軍軍政府は石川市（現うるま市）東恩納の地に「沖縄陳列館」を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年（1946）3月頃、首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

〔創設〕

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

〔発展〕

昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階部を増築して展示スペースを拡充し、現在に至る。

〔あゆみ〕

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。

昭和22年（1947）12月、前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。
「沖縄民政府立首里博物館」（以下「首里博物館」とする）に改称される。

昭和28年（1953）3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環としてペルリ記念館も博物館に附設して落成、贈呈される。

昭和30年（1955）9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。

昭和40年（1965）大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。

昭和41年（1966）10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11月に開館。

昭和47年（1972）2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。

昭和48年（1973）2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設。

昭和49年（1974）1月、特別展「沖縄の石彫」開催。

昭和51年（1976）4月、創立30周年記念式典を行う。

12月、「博物館30年の歩み展」開催。

昭和59年（1979）6月、特別展「沖縄の洞穴と洞穴生物」開催。

昭和55年（1980）1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年、離島市町村で実施。

8月、特別展「琉球のシダ植物」開催。

11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。

昭和56年（1981）3月30日、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。

10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵—」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和57年（1982）5月、新たに常設展として自然部門を設置。

7月、企画展「沖縄の昆虫」開催。

10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化」開催。

- 昭和58年（1983）5月、企画展「琉球の漆器展」開催。
11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展－沖縄の美－風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。
- 昭和59年（1984）6月、企画展「玉城朝薰生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀－」開催。
7月、企画展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」開催。
10月、企画展「今帰仁グスク展」開催。
- 昭和60年（1985）2月、企画展「紅型衣装と型紙展」開催。
11月、特別展「グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマンー」開催。
- 昭和61年（1986）2月、特別展「大嶺薰コレクション－美術芸術を求めて－」開催。
- 昭和62年（1987）10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画－物故作家」開催。
12月、企画展「田名家収蔵品展－ある首里士族の400年」開催。
12月、企画展「現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション」開催。
- 昭和63年（1988）8月、特別展「ヤンバルの自然」開催。
11月、特別展「三線名器100挺展」開催。
- 平成元年（1989）11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
12月、企画展「真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」開催。
- 平成2年（1990）1月、特別展「大アンデス文明展」開催。
8月、企画展「沖縄の野鳥展」開催。
11月、企画展「沖縄の祭り」開催。
- 平成3年（1991）2月、企画展「技と美－大城志津子の世界－」開催。
8月、企画展「沖縄のチョウ展」開催。
9月、企画展「壺屋陶工作展」開催。
10月、特別展「アジアの祭りと芸能～仮面と音楽～」開催。
- 平成4年（1992）2月、企画展「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」開催。
6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
8月、特別展「沖縄の貝類～海からの贈りもの～」開催。
10月、特別展「琉球王国～大交易時代とグスク～」開催。
- 平成5年（1993）1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。
2月、企画展「謝花雲石展」開催。
7月、企画展「芭蕉布と平良敏子」開催。
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
10月、企画展「刻まれた歴史－沖縄の石碑と拓本－」開催。
- 平成6年（1994）7月、特別展「子どもの世界」開催。
- 平成7年（1995）6月、戦後50周年記念特別展「蘇る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
- 平成8年（1996）7月、特別展「大久米島展」開催。
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。創立50周年式典を行う。
- 平成9年（1997）4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
- 平成10年（1998）7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。
11月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催。
- 平成11年（1999）8月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催。
10月、企画展「日本の技～伝統のかたち～」開催。（第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展）
- 平成12年（2000）2月、企画展「工芸王国－きらめく手わざの世界を沖縄から－」開催。
7月、特別展サミット開催記念「大琉球展」開催。
11月、特別展ハワイ移民100周年記念「日系移民1世紀展」開催。
- 平成13年（2001）2月、企画展「沖縄の繊維・染料植物展」開催。
3月、企画展「工芸王国－人・技・心－」開催。

- 11月、特別展「かざりとかたち」開催。
- 平成14年（2002）9月、特別展「港川人展」開催。
- 10月、企画展「沖縄の文化財展」開催。
- 平成15年（2003）2月、企画展「沖縄ナースものがたり」開催。
- 7月、企画展「旅する種子～運ばれるための巧妙なしきけ～」開催。
- 10月、特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」開催。
- 平成16年（2004）2月、企画展「戦前・戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」開催。
- 8月、企画展「沖縄歴史を綴る秘宝展」開催。
- 11月、企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」開催。
- 平成17年（2005）2月、特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～」開催。

[歴代館長]

東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫（昭和21年4月～28年3月・東恩納博物館）
豊平 良顕（昭和22年12月～23年3月・首里博物館）
原田 貞吉（昭和23年8月～28年3月・△）

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉（昭和28年3月～30年5月）

琉球政府立博物館

山里 永吉（昭和30年5月～33年8月）
金城増太郎（昭和33年9月～36年12月）
大城 知善（昭和37年2月～44年11月）
外間 正幸（昭和44年12月～47年4月）

沖縄県立博物館

外間 正幸（昭和47年5月～56年3月）	當間 一郎（平成8年4月～11年3月）
大城徳次郎（昭和56年4月～58年3月）	大城 将保（平成11年4月～12年3月）
大城 立裕（昭和58年4月～61年3月）	平田 輿進（平成12年4月～14年3月）
大城 宗清（昭和61年4月～平成4年3月）	當眞 嗣一（平成14年4月～17年3月）
宜保榮治郎（平成4年4月～6年3月）	名嘉 政修（平成17年4月～△）
糸数 兼治（平成6年4月～8年3月）	

2. 日誌抄（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

○平成16年

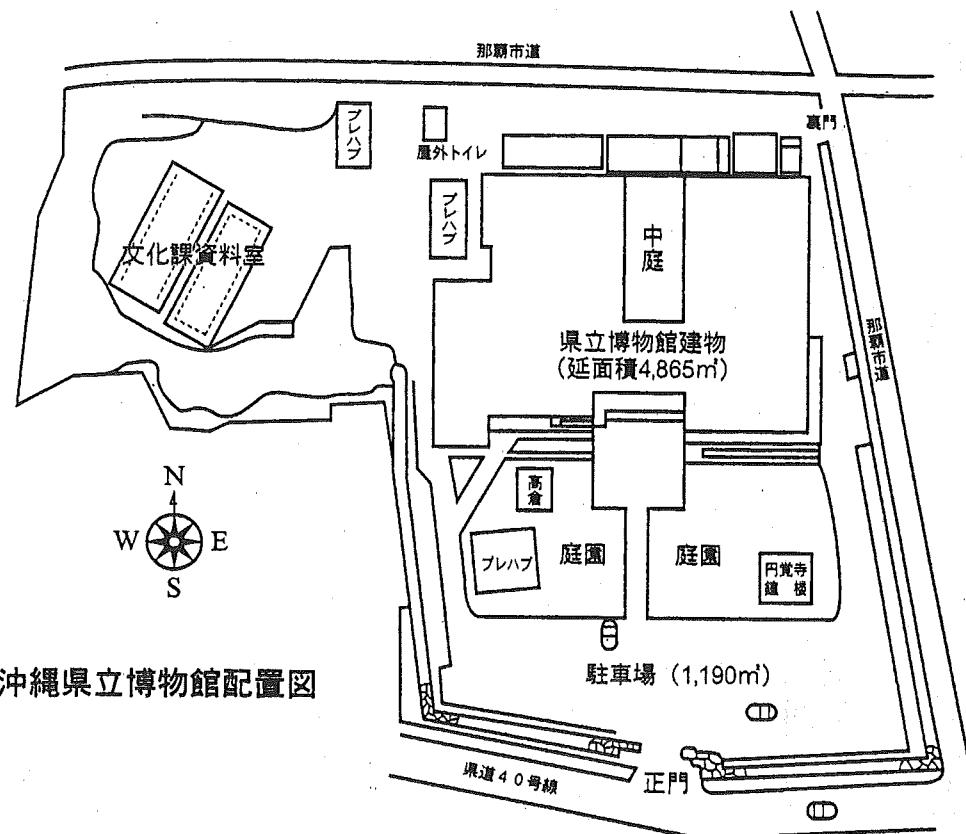
- 4月 7日 県職員新規採用研修
- 5月11日 I C O M国際博物館の日「5月18日」関連 パネル展「博物館を知ろう」、5／23迄
17日 第1回博物館学芸員実習、3名、5／28迄
24日 県立博物館広報展（県庁1階ロビー）、5／28迄
- 6月 3日 平成16年度沖縄県博物館協会総会・研修会（浦添市役所等）
7日 救急隊員による救急手当講習会（博物館講堂）
10日 平成16年度九博協理事会・総会（佐賀県）、11日迄
22日 企画展「新収蔵品展」開催、8／1迄
28日 平成16年度九国博誘致推進本部総会（福岡市、館長参加）
- 7月 1日 学芸員2名新規採用
7日 職場体験学習実習（東風平中学校2名）

- 7月23日 九州国立博物館支援会議（福岡市、館長参加）
24日 国立歴史民俗博物館来館調査（資料閲覧）
- 8月3日 パネル展「新館ができます」、8／29迄
4日 教員10年研修（西原高校）、8／7迄
10日 企画展「沖縄歴史を綴る秘宝展」（主催 沖縄コレクター友の会）、8／29迄
21日 北京故宮博物院来館（8名）
- 9月6日 煉蒸作業の為休館、9／10迄
- 10月4日 九州国立博物館室長来館（6名）
13日 熊本県立美術館来館
14日 九州博物館協会研修会（那霸市）、15日迄
21日 沖博協秋期研修会（恩納村）、22日迄
27日 国立済州博物館館長来館
- 11月1日 第2回博物館学芸員実習、16名、11／12迄
2日 故宮博物院来館
3日 「文化の日」入館料無料、入館者数803人
博物館シアター文化の日特別映写会 「戦前の沖縄関係映像の全体像Ⅰ・Ⅱ」
9日 「博物館新館」起工式
企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」、12／12迄
- 10日 国立台湾歴史博物館来館
19日 平成16年度第29回移動博（北大東村）、11／20迄
30日 神奈川県議会健康増進特別委員会来館
- 12月15日 沖縄県立博物館協議会開催

○平成17年

- 1月18日 石橋美術館館長来館
2月3日 消防訓練講習会
9日 「世界遺産学外演習（インターナンシップ）」（筑波大学大学院）受入、2／15迄
15日 特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～」
3／13迄
- 3月29日 消防訓練（那霸市役所消防本部首里出張所）

3. 施設・設備



沖縄県立博物館配置図

施設規模

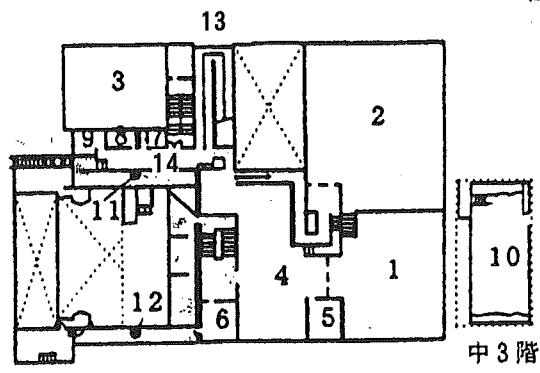
● 敷地面積 11,267m ²	● 空調能力
● 建物延べ面積 4,865m ²	ウォーターチーリングユニット《空冷式》
1階及び講堂部分 2,530m ²	125,000Kcal/h × 2基
2階部分 1,926m ²	エアハンドリングユニット 6基
地下部分 409m ²	161,028Kcal/h (講堂用)
● 展示面積 1,590m ²	34,658Kcal/h (第3・4展示室系)
1階 632m ²	30,000Kcal/h (第1展示室系)
2階 958m ²	25,830Kcal/h (地下収蔵庫)
● ロビー面積 415m ²	21,270Kcal/h (1階収蔵庫)
(非常口への廊下も含む)	18,263Kcal/h (第2展示室系)
● 収蔵庫面積 1,048m ²	パッケージ型ユニット 4台
● 駐車場面積 1,190m ²	● 受変電設置
● 庭園面積 1,612m ²	電灯 Tr 1φ3W 30KVA×1基
● 講堂 (客席のみ) 376m ²	電灯・動力Tr 3φ4W 100KVA×1基
客席数235席	動力 3φ3W 250KVA×1基
	● 契約電力 249KW

【2階】

番号 室名

1	美術工芸展示室	274m ²
2	民俗展示室	446m ²
3	漆器収蔵室	170m ²
4	企画展示室	257m ²
5	空調機械室	29m ²
6	コンピューター室	38m ²
7	化粧室(女)	6m ²
8	化粧室(男)	10m ²
9	空調機械室	17m ²
10	化石収蔵庫(中3階)	120m ²
11	貝類収蔵庫	35m ²
12	陶器収蔵庫	38m ²
13	スロープ	75m ²
14	廊下	57m ²

図1



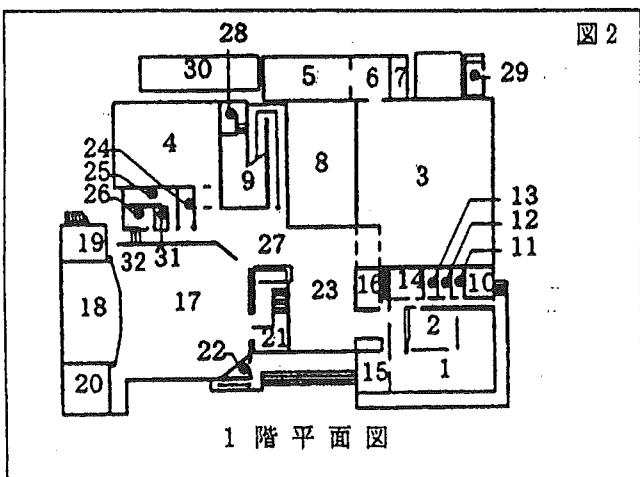
2階平面図

【1階】

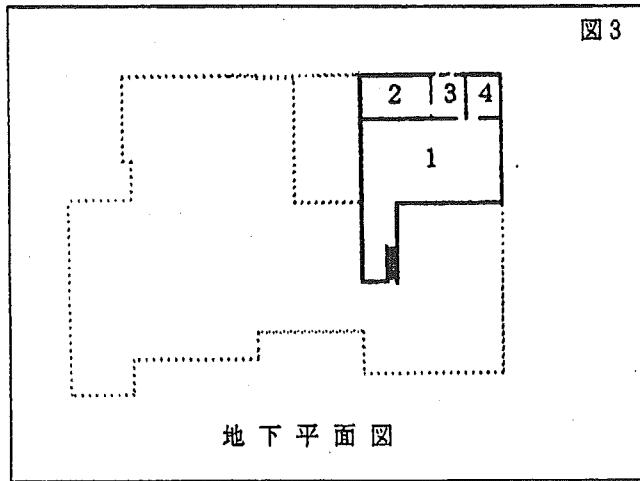
番号 室名

1	事務室	130m ²
2	会議室	40m ²
3	考古・歴史展示室	466m ²
4	自然史展示室	189m ²
5	収蔵庫	120m ²
6	荷解場	32m ²
7	陶磁器収蔵庫	11m ²
8	中庭	152m ²
9	厨子甕収蔵庫	91m ²
10	休憩室	16m ²
11	湯沸室	8m ²
12	化粧室(女)	8m ²
13	化粧室(男)	9m ²
14	図書室	21m ²
15	館長兼応接室	26m ²
16	案内コーナー	20m ²
17	講堂(客席)	376m ²
18	ステージ	128m ²
19	控室	19m ²
20	控室	37m ²
21	講堂出入口	48m ²
22	守衛室	7m ²
23	ロビー	415m ²
24	倉庫	14m ²
25	化粧室(女)	24m ²
26	化粧室(男)	15m ²
27	友の会売店	10m ²
28	空調機械室	11m ²
29	消火栓ポンプ室	5m ²
30	厨子甕収蔵庫	75m ²
31	障害者用トイレ	7m ²
32	廊下(裏口用)	18m ²

図2



1階平面図



地下平面図

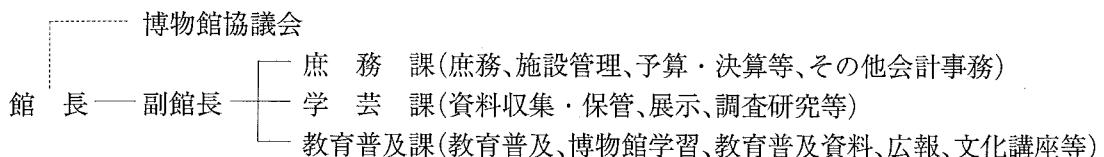
【地階】

番号 室名

1	収蔵庫	290m ²
2	空調機械室	61m ²
3	荷解場	28m ²
4	受変電設備	30m ²

4. 組織(平成17年4月1日現在)

(1) 組織



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	名嘉政修	博物館業務の総理に関すること。
副館長	友利克実	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

庶務課

副館長兼庶務課長	友利克実	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。
主査	當間正子	歳出事務、決算事務、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他の庶務に関すること。
主事	金城博之	給与、歳入、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関する事、図書類、消耗品受入、文書等の収受、切手等の管理、その他庶務に関する事。
主任	平安山明彦	施設設備の保守管理、全館薰蒸、車両の管理、防火管理補助、備品、その他庶務に関する事。

学芸課

主幹兼課長	津波古聰	学芸業務全般の総括、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖縄県博物館協会、博物館新館建設事業に関する事（総括）。
指導主事	赤嶺敏	美術工芸資料（漆器・陶器・書跡等）、資料収集事業、特別展、収蔵品台帳、写真資料貸出、博物館新館建設事業（美術工芸・閉館記念等）に関する事。
学芸員	稻福恭子	歴史資料、パネル展等企画事業、資料収集事業、博物館『年報』の編集・発行、図書資料、博物館新館建設事業（歴史資料調査等）に関する事。
主任	仲座久宜	考古資料、パネル展等企画事業、博物館『年報』の編集・発行、新館移転資料整理、移動博物館、博物館新館建設事業（考古資料・閉館記念等）に関する事。
指導主事	座霸泰	自然史資料（地質・化石）、化石資料整理、県庁ロビー展、沖縄県博物館協会、当館ホームページ、博物館新館建設事業（自然史・収蔵資料データベース等）に関する事。
指導主事（充）	嵩原建二	自然史資料（鳥類・植物等）、剥製等の調査・製作、展示資料整備、新館移転資料整理、博物館資料の管理システム、薰蒸、博物館新館建設事業（自然史資料調査等）に関する事。

指導主事 (充)	田 中 聰	自然史資料（動物等）、新収蔵品展、博物館総合調査、剥製等の調査・製作、博物館紀要、沖縄県博物館協会、博物館新館建設事業（自然史資料調査等）に関すること。
指導主事 (充)	久 場 政 彦	民俗資料、新収蔵品展、展示資料整備、博物館資料の管理システム、新館移転資料整理、博物館新館建設事業（民俗資料・野外展示等）に関すること。
学芸員	平 川 信 幸	美術工芸資料（染織・絵画・彫刻等）、特別展、写真資料等の整理、資料の修理、新館移転資料整理、博物館新館建設事業（美術工芸資料）に関すること。

教育普及課

主幹兼課長	上 地 弘 伸	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。ボランティア活動事業（登録含む）。
指導主事 (充)	伊 波 一 男	移動博物館、博物館シアター、年間ポスター・年間行事案内リーフレット等の作成、視聴覚器材（ソフト）の保全・管理、行事案内、中学校の見学及び学習への対応に関するここと。
指導主事 (充)	玉 城 善 哲	博物館体験学習教室、小学校の博物館学習の助言・調整、小学校の団体見学への対応、博物館展示リーフレットの作成、小・中学校からの手紙相談に関するここと。
学芸員 (臨任)	比 嘉 孝 子	文化講座、広報活動（マスコミ記者会見等）、当館ホームページ、文化講座・博物館だよりの発行、アンケート調査・回答、高校、大学、一般の見学及び学習への対応に関するここと。

委託職員

教育普及 補 助 員	喜久川 智 子 松 川 聖 子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関するここと。
監 視 員	伊 波 芙美子 島 袋 千恵子 當 真 哲 子 金 城 靖 子 国 吉 さゆり 山 田 雅 幸 添 石 訓 子	受付補助及び展示室監視に関するここと。
緑化整備員	金 城 朝 正	緑化整備に関するここと。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓 子	博物館友の会の庶務会計に関するここと。
-------	---------	---------------------

(3) 人事異動

平成17年4月1日現在

職 名	氏 名	摘 要
【転出】 館 長	當 真 嗣 一	定年退職
【転入】 館 長	名 嘉 政 修	教育庁文化課長
学芸員 〃	稻 福 恭 子 平 川 信 幸	平成16年7月1日新規採用 〃

5. 沖縄県立博物館協議会

日 時：平成16年12月15日（水）14:00～16:00

場 所：県立博物館会議室

会議事項

1. 平成16年度博物館事業報告

- (1) 平成16年度予算について
- (2) 学芸課事業について
- (3) 教育普及課事業について

2. 平成17年度博物館事業計画

- (1) 平成17年度予算について
- (2) 学芸課事業について
- (3) 教育普及課事業について

沖縄県立博物館協議会委員名簿(平成16年12月15日～平成18年12月14日)

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	祝 嶺 恭 子	県立芸術大学附属研究所 (美術工芸)	客員教授
	新城 和 治	元琉球大学 (自然史)	元教授
	金城 正 篤	沖縄大学 (歴 史)	教 授
	上原 靜	沖縄国際大学 (考古学)	助教 授
	津波 高 志	琉球大学 (民 俗)	教 授
学校教育関係者	平 良 昌 義	沖縄県小学校長会	副会長
	仲 西 勉	沖縄県中学校長会	副会長
	又 吉 孝 一	沖縄県高等学校長協会	副会長
社会教育関係者	藏根 芳 雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会 長
	田畠 静 夫	沖縄県P.T.A連合会	会 長

6. 予 算

平成16年度博物館費(決算)

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	74,400	0	74,400
賃金	0	711,340	711,340
報償費	0	207,500	207,500
旅費	335,460	2,678,970	3,014,430
需用費	17,355,000	4,740,999	22,095,999
役務費	2,135,998	256,000	2,391,998
委託料	24,290,080	26,894,000	51,184,080
使用料及び賃借料	31,458	673,002	704,460
備品購入費	1,163,400	677,746	1,841,146
負担金補助及び交付金	75,000	4,999,050	5,074,050
公課費	18,900	0	18,900
合計	45,479,696	41,838,607	87,318,303

平成16年度歳入状況

(単位：円)

	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	6,217,960	6,217,960
土地使用料	83,446	0	83,446
建物使用料	47,835	0	47,835
雜入	83,138	0	83,138
合計	214,419	6,217,960	6,432,379

II. 入館者数
1 入館者月別集計

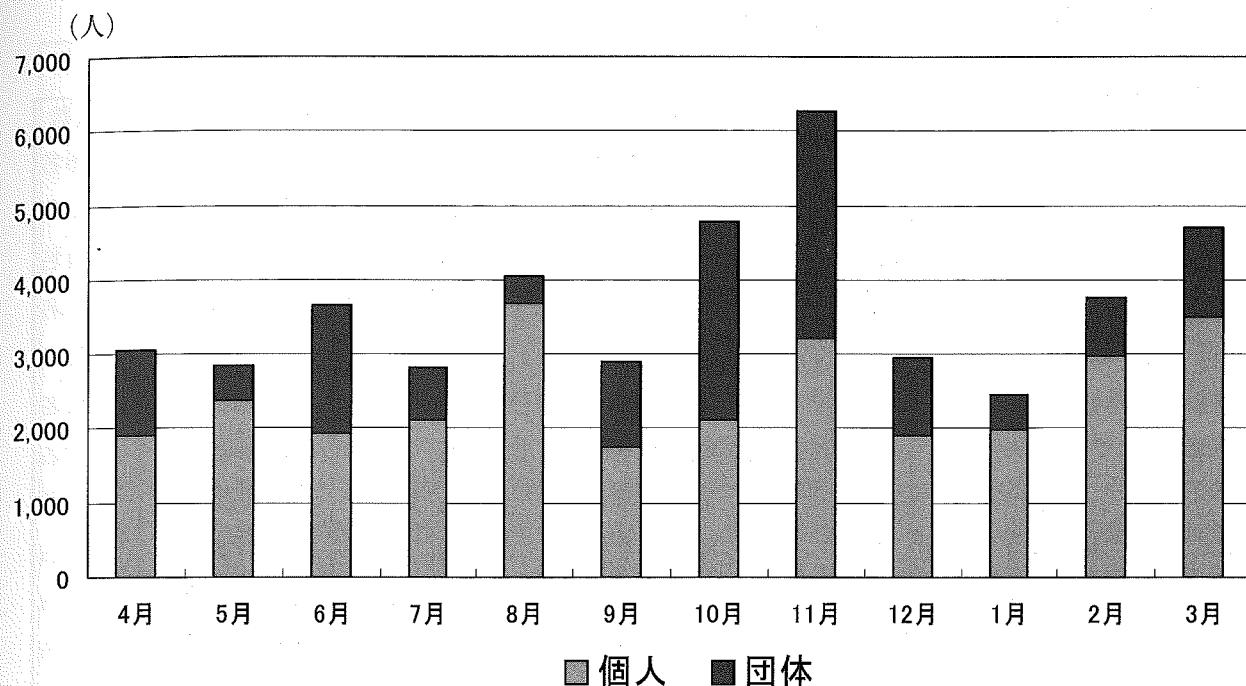
年月	個人入館者数												団体入館者数																	
	大人				高校・大学生				小中学・幼稚				合計				大人				高校・大学生				小中学・幼稚				合計	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	合計			
4	1,551	66	92	0	177	29	1,820	95	1,915	331	212	0	5	140	453	471	670	1,141	1,882	278	92	5	317	482	2,291	765	3,056	25	122	
5	1,612	163	131	0	401	67	2,144	230	2,374	100	73	33	17	175	45	328	135	463	1,712	236	184	17	576	112	2,472	365	2,837	25	113	
6	1,445	116	207	40	100	21	1,752	177	1,929	116	128	945	78	30	440	1,091	646	1,737	1,561	244	1,152	118	130	461	2,843	823	3,666	25	147	
7	1,475	96	222	4	234	89	1,931	189	2,120	201	111	20	31	23	321	244	463	707	1,676	207	242	35	257	410	2,175	652	2,827	26	109	
8	2,314	45	273	1	897	150	3,484	196	3,680	62	26	21	0	248	24	331	50	381	2,376	71	294	1	1,145	174	3,815	246	4,061	26	156	
9	1,022	75	256	38	61	301	1,339	414	1,753	122	1	126	116	114	675	362	792	1,154	1,144	76	382	154	175	976	1,701	1,206	2,907	18	162	
10	1,460	45	420	0	84	97	1,964	142	2,106	155	9	745	33	472	1,253	1,372	1,295	2,667	1,615	54	1,165	33	556	1,350	3,336	1,437	4,773	25	191	
11	1,755	720	380	47	107	214	2,242	981	3,223	20	60	772	755	159	1,284	951	2,099	3,050	1,775	780	1,152	802	266	1,498	3,193	3,080	6,273	23	273	
12	1,293	47	429	0	77	61	1,799	108	1,907	153	20	178	396	109	184	440	600	1,040	1,446	67	607	396	186	245	2,239	708	2,947	22	134	
13	1,453	89	316	1	91	27	1,860	117	1,977	19	0	223	3	0	242	242	487	1,472	89	539	4	91	269	2,102	362	2,464	22	112		
14	2,119	96	210	0	441	123	2,770	219	2,989	87	0	0	228	451	315	451	766	2,206	96	210	0	669	574	3,085	670	3,755	18	209		
15	2,141	93	437	0	451	386	3,029	479	3,508	89	349	723	0	18	17	830	366	1,196	2,230	442	1,160	0	469	403	3,859	845	4,704	21	224	
16	19,640	1,651	3,373	131	3,121	1,1	565	26,134	3,347	29,481	1,455	989	3,806	1,434	1,716	5,389	6,977	7,812	14,789	21,095	2,640	7,179	1,565	4,837	6,954	33,111	11,159	44,270	276	160
合計	21,291	3,504	4,686	29,481		2,444	5,240	7,105		14,789		43,375	8,744	11,791	44,270															
総計	21,503	3,504	4,686	29,481		2,444	5,240	7,105		14,789		43,375	8,744	11,791	44,270															

曜日	個人入館者数												団体入館者数																	
	大人				高校・大学生				小中学・幼稚				合計				大人				高校・大学生				小中学・幼稚				合計	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	合計			
火	2,303	193	469	0	352	65	3,124	258	3,382	77	101	626	42	108	1,048	811	1,191	2,002	2,380	294	1,095	42	460	1,113	3,935	1,449	5,384	40	135	
水	2,681	802	683	47	375	368	3,739	1,217	4,956	291	387	763	52	183	1,303	1,237	1,742	2,979	2,972	1,189	1,446	99	558	1,671	4,976	2,959	7,935	47	169	
木	2,696	155	651	4	427	229	3,774	388	4,162	179	26	534	42	292	1,089	1,005	1,157	2,162	2,875	181	1,185	46	719	1,318	4,779	1,545	6,324	46	137	
金	2,863	119	651	78	417	113	3,931	310	4,241	278	138	856	1,201	813	1,881	1,947	3,220	5,167	3,141	257	1,507	1,279	1,122	1,122	7,507	48	156	48	196	
土	4,229	159	487	1	493	577	5,209	737	5,946	305	317	733	0	138	68	1,176	385	1,561	4,534	476	1,220	1	631	645	6,385	1,122	7,507	48	156	
日	4,868	223	432	1	1,057	213	6,357	437	6,794	325	20	294	97	182	0	801	117	918	5,193	243	726	98	1,239	213	7,158	554	7,712	48	161	
合計	19,640	1,651	3,373	131	3,121	1,1	565	26,134	3,347	29,481	1,455	989	3,806	1,434	1,716	5,389	6,977	7,812	14,789	21,095	2,640	7,179	1,565	4,837	6,954	33,111	11,159	44,270	277	196
総計	21,503	3,504	4,686	29,481		2,444	5,240	7,105		14,789		23,735	8,744	11,791	44,270															

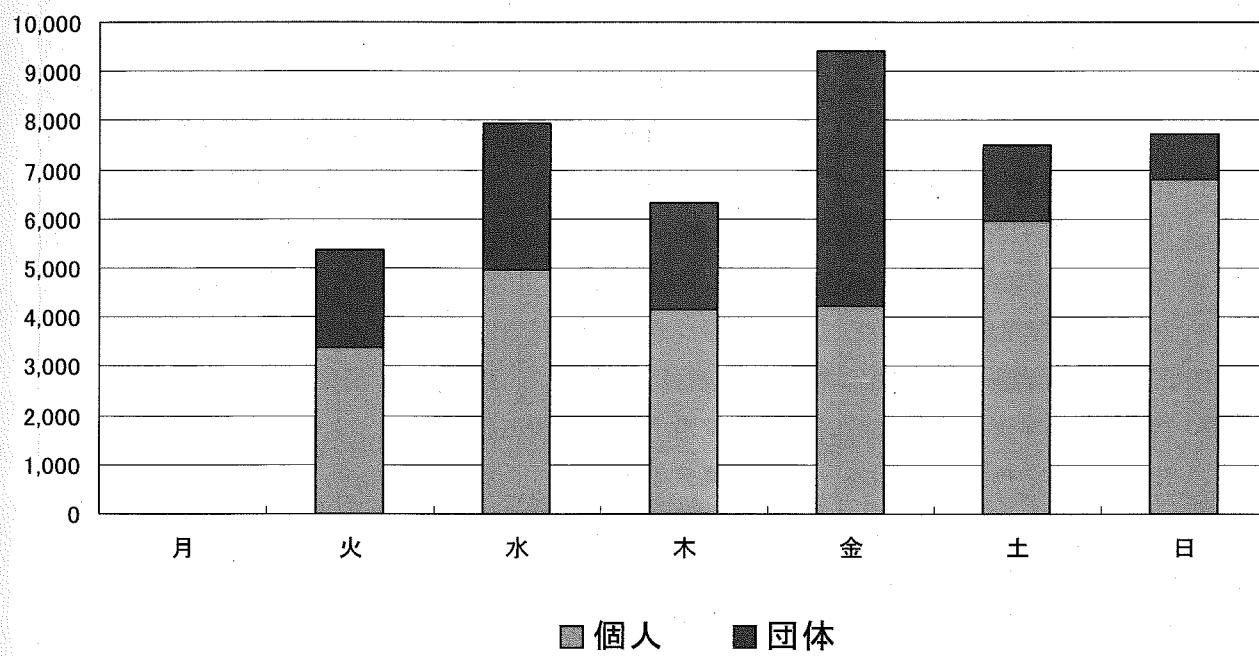
団体入館者数(有料)

年月	県内										県外										合計					
	大人					高校・大学生					小中学生					大人					高校・大学生					
	团体数	团体人数	团体人数	团体人数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数		
平成16年 4月	2	223				2	223				2	140	2	140	4	108					4	108	8	471		
5月	2	53				2	53	2	100		2	175	4	275									6	328		
6月	2	40				2	40	1	59	9	944	1	28	11	1,031	1	17	1	17	1	2	1	20	14	1,091	
7月	3	180				1	23	4	203	1	21	1	20			2	41							6	244	
8月	1	50				1	7	226	8	277	12		1	22	1	34								9	311	
9月	1	36				4	114	5	150	2	66	5	146			7	212	1	20				1	20	13	382
10月	2	61	1	29		3	90	1	20	7	716	4	472	12	1,208	2	74						2	74	17	1,372
11月	1	20				1	20			6	772	2	159	8	931									9	951	
12月	3	85				3	85	3	68	1	178	1	109	5	355									8	440	
平成17年 1月										1	19	1	223			2	242								2	242
2月	2	51				4	228	6	279	1	36					1	36							7	315	
3月	1	39	1	29	1	18	3	86		50	7	694		7	744								10	830		
合計	18	785	4	112	17	609	39	1,506	12	451	37	3,693	13	1,105	62	5,249	8	219	1	2	8	222	109	6,977		

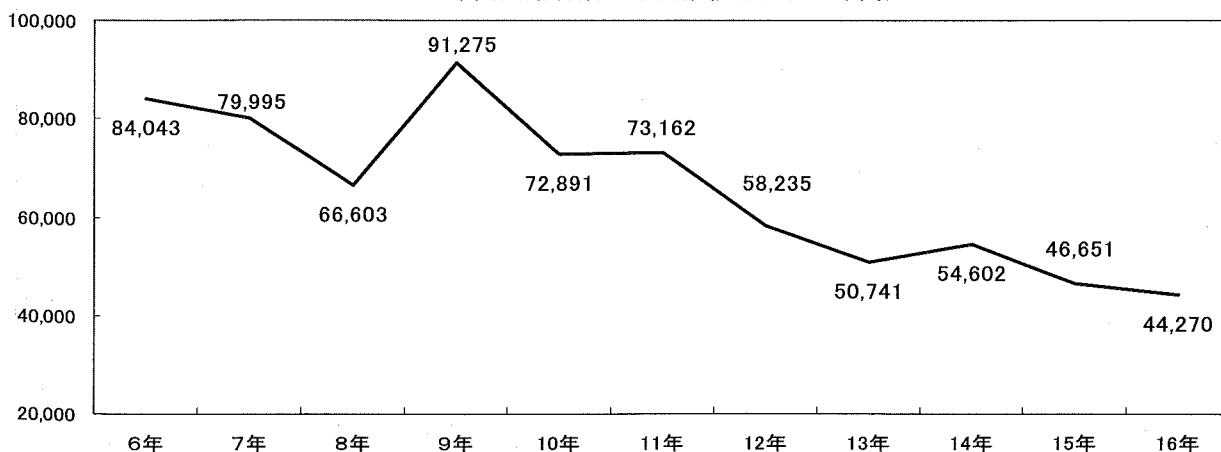
平成16年度月別入館者数



平成16年度曜日別入館者数



年間入館者数の年次推移(過去10年間)



2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 75校 5,651名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
4	28	南風原小学校	94名	10	5	喜瀬武原小学校	9名	11	19	漢那小学校	26名
	28	大謝名小学校	112名		6	城東小学校	120名		19	金城小学校	203名
	28	城西小学校	148名		7	玉城小学校	55名		19	嘉陽小学校	4名
	28	浦添小学校	99名		7	与那原東小学校	103名		24	西原東小学校	70名
5	18	亀徳小学校 6年	20名	15	8	真壁小学校	44名	12	25	沖縄カトリック小学校	102名
6	4	城西小学校	126名		15	鳥取県岩美町児童交流園	22名		26	源河小学校	11名
	10	平良第一小学校	106名		15	城南小学校	96名		30	津覇小学校	72名
	11	小祿南小学校	118名		21	浦城小学校	177名		7	那覇養護学校	1名
7	30	面繩小学校 6年生	28名	22	座安小学校	115名	8	8	桃原小学校	8名	
	1	南大東小学校	18名		22	和光鶴川小学校	72名	9	松田小学校	16名	
	1	名蔵小学校	13名		23	和光小学校	72名	21	高原小学校	184名	
	2	喜如嘉小学校	17名		27	百名小学校	44名	21	塩屋小学校	14名	
8	8	城東小学校	94名	27	27	百名小学校	38名	2	2	安謝小学校	136名
	13	垣花小学校	53名		28	泊小学校	125名		4	開南小学校	46名
	14	伊平屋小学校	23名		29	渡慶次小学校	88名		17	曙小学校	71名
	10	ふれ愛学童	24名		29	津嘉山小学校	106名		18	仲井真小学校	116名
9	18	沖縄キッズクラブ	49名	11	29	北谷小学校	92名	3	26	壺屋小学校	28名
	19	学童館	48名		2	真地小学校	89名		26	大名児童園	24名
	20	うちま学童クラブ	20名		2	真地小学校	89名		5	糸満市西崎太陽児童センター	21名
	24	津嘉山学童クラブ	30名		2	さつき小学校	125名				
9	26	あゆみ学院	20名	2	2	瀬喜田小学校	18名				
	15	松島小学校	168名		5	牧港小学校	119名				
	16	城北小学校	129名		5	嘉芸小学校	29名				
	17	仲西小学校	125名		9	城西小学校	125名				
9	22	城西小学校	109名	10	10	神原小学校	91名				
	22	大道小学校	74名		11	栗国小学校	9名				
	28	大里南小学校	232名		11	北美小学校	89名				
	30	西原小学校	120名								

(中学校) 19校 1,904名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
4	23	樟蔭東中学校	20名	7	16	松城中学校	116名	11	12	南闖中学校	133名
	25	満濃中学校	120名		9	豊見城中学校	35名		26	大宜味中学校	226名
5	8	金武中学校	13名	24	Kadena middle school	79名	12	1	竜北中学校	109名	
	27	鏡中学校	155名		29	浦西中学校	7名	14	安岡中学校	189名	
6	4	国頭中学校	90名	10	15	大矢野中学校	170名		4	吉堅中学校	228名
7	6	西原東中学校	26名	10	22	富山大学附属中学校	158名				
	15	首里中学校	4名	11	12	北山口中学校	26名				

(高等学校) 52校 4,928名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	20	川崎市立聾学校	7名	9	30	群馬自動車整備専門学校高等部	37名	11	25	陽明高等学校	11名
5	26	沖縄少年院	9名	10	5	群馬県立館林高校	40名		26	陽明高等学校	10名
	28	森川養護学校	13名		6	清心女子高校	20名		26	首里高等学校	480名
6	4	浦添工業高等学校	14名		7	新居浜南高校	68名	12	10	那覇国際高等学校	396名
	8	神奈川県立磯子工業高校	81名		8	金沢市立峰高等学校	235名		10	沖縄少年院	3名
	15	市立六甲高校	43名		8	愛媛県立今治南高等学校	58名		21	修徳高等学校女子	155名
	24	九州産業高等学校	127名		13	茨城高等学校	30名	1	7	開智高校	178名
	25	九州産業高等学校	131名		22	大妻嵐山高校	265名	2	23	沖縄高等養護学校	32名
	25	首里高等学校	40名	11	5	具志川高等学校	20名	3	1	保善高校	129名
	26	明宝高等学校	145名		6	川越高校	337名		3	保善高校	140名
	26	九州産業高等学校	142名		11	沖縄少年院	5名		8	常磐大学高等学校	151名
	27	鎌倉女子大学高等部	141名		12	菊花高等学校	114名		9	常磐大学高等学校	111名
	27	九州産業高等学校	134名		13	菊花高等学校	68名		10	法政女子高等学校	29名
7	9	真和志高等学校	18名		16	小禄高等学校	37名		10	常磐大学高等学校	149名
	29	沖縄少年院	5名		17	山梨県立山梨高校	40名		12	都立東村山西高校	222名
9	17	辺土名高等学校	83名		24	修徳高等学校男子	58名		30	倉敷高等学校野球部	35名
	22	武蔵工大附属高校	50名		24	美里高等学校	21名				
	24	南部農林高等学校	38名		25	美里高等学校	23名				

(大学・専門学校) 11校 305名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
5	28	琉球大学法文学部日東文化	31名	9	4	進手門学院大学文学部アジア文化学科	20名	10	27	琉球大学留学生課	28名
	28	琉球大学法文学部科目等履習生	22名		12	和光大学	21名		29	琉球大学留学生センター	8名
6	20	法政大学通信教育部	64名		12	沖縄県立芸術大学	33名	3	23	沖縄国際大学	29名
8	31	都留文科大	20名	10	13	那覇情報システム専門学校公務員専攻科	29名				

(その他) 23団体 474名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
5	18	浦添市立浦添幼稚園	80名	10	7	城南幼稚園	48名	3	1	MOA沖縄幼児学園	17名
7	15	慈愛幼稚園	18名		30	沢畠学童クラブ	25名		2	城東児童クラブ	21名
8	10	ふれ愛学童	20名	11	30	こども園まるある	19名		3	首里共同保育所	8名
	15	宜野湾市19区12班	15名	1	13	平和保育園	23名		4	エミール保育園	19名
	20	普天間青空学童クラブ	10名		19	沖縄女子短期大学付属報恩幼稚園	16名		4	MOA沖縄幼児学園	19名
	24	津嘉山学童	13名	2	15	こざくら保育園	11名		11	エミール保育園	18名
	26	あゆみ学院	9名		17	ぴっころ保育園	22名		11	かねしま乳児園	17名
	27	親田原児童クラブ	10名		17	たつのこ保育園	16名				

III. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補する関係にあるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む共同研究と、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究とがある。

共同研究としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各分野の基礎資料の掘り起こしと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間島（平成8年度・9年度）、西表島（平成10年度～12年度）、小浜島（平成13年度～15年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。平成16年度からは与那国島について調査を実施し、平成20年度は報告書を刊行する予定である。なお、通常総合調査は3年間で実施しているが、平成19年度は新館移転のため、報告書の刊行を1年延長した。また平成20年度以降に、これまで実施した調査地の展示会を検討している。

各学芸員については、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもとで進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様な方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、毎年刊行する『沖縄県立博物館紀要』をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、平成16年度に当館及び学芸員が実施した調査研究活動の状況を報告する。

2. 博物館総合調査

・与那国島総合調査

(担当：田中 聰)

予算額：1,029,000円

1. 博物館総合調査事業の趣旨

沖縄県は多くの島々から成り立ち、島ごとに独自の自然やそれを背景としたくらしがある。これまで、県内の個々の島について、生物相、遺跡の分布、民俗・集落や伝統行事等については報告が散見される。しかし、島々の自然・歴史・文化をより深く理解するためには、まだまだ基礎的なデータが十分とはいえない。

近年、県内においても森林伐採・道路建設・干潟の埋め立てなどの乱開発のため、自然環境は大きく変貌してきている。さらに、住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も変わりつつある。このままでは、島々の自然・歴史・文化などに関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで本事業は、県内離島の自然・歴史・文化について調査研究により価値を見いだし、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の実態を多くの県民に伝えることを目的としている。島々の自然の現状や伝統文化を知ることによって、攪乱に対して脆弱な島々の自然環境の保全や貴重な文化的資料の保存に対する理解が深められ、より良い形での地域の発展につながることと考えられる。

与那国島総合調査は、平成16年から平成20年までの5年計画で実施する。

2. 与那国島の選定理由

与那国島は国内で最西端に位置し、台湾までの距離もきわめて近い。生物相は八重山諸島のなかでも独特であり、与那国島だけに固有の種も多い。また、方言をはじめとしたくらしや文化は八重山諸島のなかでも特異であり、詳細な調査が必要である。

3、総合調査組織

本調査組織は平成16年度から平成20年度に沖縄県立博物館に在籍する各分野の学芸員により構成される。

4、調査方法

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸、教育普及の6分野で実施する。各分野で調査対象、調査地域、方法論等が異なるため、現地調査は分野ごとに検討した調査計画に基づき、各調査員が個別に実施する。

初年度にあたる平成16年度および平成17年度は全職員で調査を実施する。平成18・19年度は一部の職員で補足調査を実施し、平成20年度に報告書を作成する。

5、総合調査の成果

平成20年度に報告書を刊行し、平成20年度ないし平成21年度に、これまでに総合調査を実施した八重山諸島西側の4島嶼（波照間島・西表島・小浜島・与那国島）を対象とした展示会を実施する。また、調査をとおして収集した資料は県立博物館資料として収蔵し、今後の展示活動等に活用する。

3. 調査研究

嵩原 建二（充指導主事）

○名 称：名護市動植物総合調査（名護市一円）

期 間：平成16年4月1日～平成17年3月31日

依頼機関：名護市教育委員会

○名 称：アマミヤマシギ生息実態調査会議

期 間：平成16年4月1日～平成17年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会文化課

○名 称：移動博物館に伴う自然ガイド養成講座講師（北大東島）

期 日：平成16年11月22日

依頼機関：北大東村教育委員会

○名 称：新館展示関連資料収集調査（国頭村）

期 日：平成17年2月16日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示関連資料収集調査（宮古島）

期 日：平成17年2月23日～25日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

田中 聰（充指導主事）

○名 称：平成16年度国指定天然記念物（オカヤドカリ類）緊急実態調査

期 間：平成16年6月11日～平成17年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会

○名 称：与那国島総合調査

期 間：平成16年7月、平成17年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示関連資料収集調査（国頭村）

期　　日：平成17年1月29日、2月7日、3月2日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

座霸 泰（指導主事）

○名　　称：与那国島総合調査（与那国島）

期　　間：平成16年7月27日～29日

依頼機関：沖縄県立博物館

○名　　称：新館展示資料調査（久米島）

期　　間：平成16年10月30日～31日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名　　称：洞穴調査（石垣島）

期　　間：平成16年11月10日～12日

依頼機関：沖縄洞穴協会

○名　　称：新館展示資料調査（石垣島、西表島）

期　　間：平成17年1月28日～30日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名　　称：地質資料調査（宮古島）

期　　間：平成17年3月4日～6日

○名　　称：展示資料調査（東京都）

期　　間：平成17年1月17日～19日

久場政彦（充指導主事）

○名　　称：新館展示資料調査

（久米島自然文化センター、上江洲家住宅、久米島具志川農村環境改善センター）

期　　間：平成16年10月31日～11月1日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名　　称：新館展示資料調査（石垣市、竹富町、与那国町）

期　　間：平成16年12月8日～12日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名　　称：新館展示資料調査（宮古島、伊良部島）

期　　間：平成16年2月21日～23日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名　　称：新館展示資料調査（神戸大学海事科学部海事博物館）

期　　日：平成16年3月11日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

赤嶺 敏（指導主事）

○名　　称：新館展示資料の複製に係る写真撮影（滋賀県、奈良県）

期　　間：平成17年2月17日～20日

依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：与那国島総合調査
期 間：平成17年3月2日～4日
依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示資料の複製に係る写真撮影（滋賀県、京都府）
期 間：平成17年3月10日～12日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

仲座久宜（主任）

○名 称：与那国島総合調査
期 間：平成16年12月20日～22日
依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示資料調査
(鹿児島県歴史資料センター黎明館、鹿児島県立石橋美術館、鹿児島県立埋蔵文化財センター、鹿児島県上野原縄文の森)
期 間：平成17年1月27日～30日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：与那国島総合調査
期 間：平成17年3月2日～4日
依頼機関：沖縄県立博物館

平川信幸（学芸員）

○名 称：与那国島総合調査
期 間：平成17年1月26日～28日
依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：展示調査（東京）
期 間：平成17年3月2日～4日
依頼機関：沖縄県立博物館

○名 称：新館展示資料の複製に係る色校正立ち会い等（東京都、京都府）
期 間：平成17年3月28日～30日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

稻福恭子（学芸員）

○名 称：新館展示資料調査（石垣市、竹富島）
期 間：平成16年12月8日～10日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：新館展示資料調査（京都府、滋賀県、奈良県、大阪府）
期 間：平成17年1月18日～20日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

○名 称：与那国島総合調査
期 間：平成17年1月26日～28日
依頼機関：沖縄県立博物館

- 名 称：展示調査（東京）
期 間：平成17年3月2日～4日
依頼機関：沖縄県立博物館

4. 講演等

嵩原 建二（充指導主事）

- 名 称：西日本地域におけるカラスバト (*Columba janthina*) の遺伝的構造（共同研究）
期 日：平成17年9月17日～20日（学会発表）
開催機関：日本鳥学会（2004年度大会ポスターセッション）

- 名 称：琉球列島におけるタウナギの分布と起源（共同発表）2004年度日本魚類学会口頭発表
期 日：平成17年9月24日～27日（学会発表）
開催機関：日本魚類学会

座覇 泰（指導主事）

- 名 称：沖縄県青少年科学作品展審査
期 日：平成17年1月19日
場 所：おきでんふれあいホール
依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力

5. 著作論文等

嵩原建二（充指導主事）

- 折居彪二郎資料「琉球鳥類採集日誌」（1936年）沖縄大学地域研究所叢書（共著）
平成17年3月31日
○「北大東島自然・文化ガイドブック」 沖縄県立博物館編（共著）平成17年3月31日

田中 聰（充指導主事）

- 「琉球列島におけるトカゲ類の分布と生態－共存のしくみを軸にした教材の一例－」沖縄生物教育研究会誌 平成17年4月
○「フィールドガイド 沖縄の生きものたち」（分担執筆） 沖縄生物教育研究会
平成17年8月

6. 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法 第4条4）こととしており、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員は適宜研修を受けている。

平成16年度は、文化庁が主催する「第4回指定文化財（美術工芸）企画・展示セミナー」に参加した。この研修は2年連続で行われ、指定文化財（美術工芸）の公開活用に関わる様々な専門的知識と技能の研修で、学芸員としての資質の向上を図るものである。

- 平成16年度指定文化財企画・展示セミナー（研修者：赤嶺 敏）

IV. 展示活動

1. 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集・保管、資料の展示、教育普及活動という、4つの大きな柱によって構成されている。本館の展示活動は主として学芸課がその任にあたり、常設展を基本に特別展を年に1回から2回、企画展を1回から2回実施している。また教育普及課が主体となって、移動博物館を離島地域を対象に実施している。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の企画展示室が狭隘であるため、展示規模に合わせて第1室（考古・歴史展示室）や第3室（美術工芸展示室）を利用している。そのため、特別展開催期間中は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できない場合があることが、当館の大きな課題となっている。

平成16年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～」、企画展として「新収蔵品展－平成15年度収蔵資料－」、「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」を実施、さらに「沖縄歴史を綴る秘宝展」を沖縄コレクター友の会と共に開催した。その他、5月18日（国際博物館の日）の前後に、ミニパネル展「博物館を知ろう」と題したパネル展、5月24日～30日には県庁ロビーにて県立博物館の広報展、新館の広報を目的としたパネル展を8月3日～29日の期間で館内のロビーにて開催した。

また、文化の日は、特別映写会「戦前の沖縄をとらえた映像群」を上映し、同時に沖縄の自然・歴史・文化を啓蒙普及する一環として入館料を免除した。

以下、平成16年度の展示活動について紹介する。

2. 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のもとにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として、我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ、日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って、海洋国家として興隆したという独特的な経緯を有している。

本館は、沖縄県の特色ある自然・歴史・文化に関する資料を収集して、整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。展示室は、1階の考古・歴史展示室と自然史展示室、2階の企画展示室と美術工芸展示室、さらに中3階の民俗展示室がある。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されている。

まず館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿の大龍柱の頭、「徳高」や「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。それから動線は考古・歴史展示室へつながる。考古・歴史展示室は琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。例えば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿などを紹介する。また12世紀から13世紀になると、按司と称する在地の小領主が出現してグスク時代が始まり、各グスクから出土した遺物が展示されている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の侵攻を受けてその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代から復帰にいたるまでの独特な沖縄歴史の様相が展開されている。

自然史展示室は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれる。アンモナイトやハロビア、あるいはリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から

始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。展示室入り口から入って、右まわりの順路を進むと、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものをテーマにしたジオラマが続いている。また、沖縄のハブについても展示紹介している。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については、中央部に特設コーナーを設けて展示してある。

自然史展示室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されていて、写真を見ながら企画展示室に導かれる。このスロープでは、企画展や特別展に関連したパネル展を開催する場合もある。

2階には企画展示室、美術工芸展示室、民俗展示室がある。企画展示室では、特別展や企画展の開催がない期間に、「大嶺薰コレクション」を展示しているが、その一角を利用して各学芸員の専門性をいかしたミニコーナーを設けてある。

美術工芸展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交流を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

民俗展示室では、琉球列島の民俗資料を、農業、漁業、衣食住、芸能などのテーマで整理・分類して展示してある。庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。とりわけ、他では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などの展示は、この展示室の特徴の一つになっている。

当館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり、中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという独特な工法によって、琉球石灰岩で築かれた石牆は、前面の龍潭や首里城の景観と調和して古都のたたずまいをしのばせる歴史的景観を呈している。また野外展示にもなっている前庭には、旧円覚寺鐘楼（重要文化財）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、石灯籠や石敢當とともに粟国島のトゥージ（石製のタンク）、石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭、岩石標本などが展示されている。

3. 特別展

○特別展

「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～」

(担当:久場政彦)

会期:平成17年2月15日(火)～3月13日(日)

会場:沖縄県立博物館(考古・歴史展示室)

関連催事:特別文化講座、ワークショップ、特別ミニシアター

予算額:4,999,050円

【開催趣旨】

同展覧会は、兵庫県立歴史博物館が所蔵する入江コレクションを広く公開し、鑑賞の機会を提供することを目的として企画された全国巡回展である。入江コレクションとは、大阪市吹田市の児童文化史研究家・故入江正彦氏(1937～2000)が、日本の児童文化を総合的に理解するために収集したおもちゃ、書籍、印刷物、生活用品、文房具、教育資料、商業資料、絵画、写真など多岐にわたる一大コレクションのことである。約10万点におよぶ収集品の規模と江戸時代から現代まで網羅した歴史的な価値により、日本の児童文化の歴史を語るものとして高い評価を得ている。

昨今は、家庭や社会の中から子どもの居場所が失われ、児童を対象とする事件・事故も多発している。本展の開催は、日本の児童文化の歴史を振り返ることによって、今日の児童を取りまく状況について再考する機会を提供するものである。

【開催形式】

主催:沖縄県立博物館、(株)NHK九州メディア

後援:NHK沖縄放送局、琉球新報社

協力:兵庫県立歴史博物館

開会式は、山内彰教育長(代理)、兵庫県立歴博の松下貞夫次長の挨拶に続き、近隣の保育園・幼稚園から招待した園児90人の見守るなか、テープカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、400点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

会期中は約6,500人の入館者があり、盛況のうちに閉幕となった。



【展示内容】

第Ⅰ部・キャラクター王国ニッポン

大正期の4コマ漫画から誕生した日本のキャラクター第1号「正チャン」から現代のアニメヒーロー・ヒロインにいたる系譜を紹介した。さらに、江戸期の妖怪から現代の怪獣にいたるもう一つの系譜をとり上げている。現在、世界中の子どもたちが熱狂する日本の子ども文化について、その人気の秘密を探る構成となっている。

第Ⅱ部・こどもタイムトンネル

日本の子ども文化を時代別に紹介した。「江戸時代のおもちゃ屋」、「浮世絵の中の子どもたち」、「文明開化と子どもたち」、「花ひらく大正期の子ども文化」、「戦争と子ども文化（昭和初期～20年代）」、「駄菓子屋のある風景（昭和30～40年代）」、「遊びの大きな転換点（昭和50～60年代）」の7つの時代に分けて、日本の子ども文化の歴史を紹介した。

第Ⅲ部・おもちゃヒストリー

日本におけるおもちゃの歴史について、「福笑い」、「着せ替え」、「ままごと道具」、「メンコ」、「ブリキ玩具」、「グリコのオマケ」の展示構成で紹介した。

第Ⅳ部・からくりワンダーランド

江戸時代から明治期まで製造された日本のからくり玩具や18世紀の英國製を含む種々の光学玩具を紹介した。とりわけ、光学玩具の体験コーナーは来館者に人気があった。

第Ⅴ部・こどもたちの口マンワールド

子どもの本の源流、絵本、子どもの読み物、児童雑誌の歴史（明治・大正・昭和）の展示構成で出版物の歴史を紹介した。

また、今回は参考展示として琉球張り子を30点余り展示した。戦後、琉球玩具の復興に多大な貢献をした2大名工の崎山嗣昌と古倉保文の作品を中心に紹介した。さらに、昭和初期に出版された尾崎清次著『琉球玩具図譜』初版（館蔵品）も併せて展示した。同書は、明治～昭和初期の琉球玩具について知り得る数少ない資料の一つである。



【関連催事】

(1) 特別文化講座

演題：「いま・むかし 沖縄の子どもの世界～近代沖縄の児童文化・児童文学について～」

講師：斎木喜美子（中京女子大学助教授、第26回沖縄文化協会賞受賞）

日時：3月5日（土）14:00～16:00

会場：沖縄県立博物館講堂 ※参加無料

要 旨：明治期から復帰前後にいたる近代沖縄の児童文化・児童文学について、当時の児童雑誌や子ども新聞等の刊行物、学校教育や子ども会の活動等の内容を検証して、その特質を考察した。

(2) ワークショップ

内 容：沖縄の張り子玩具・絵付け教室

講 師：豊永盛人（張り子玩具作家、ギャラリー「Road Works」主宰）

日 時：2月19日（土）14：00～16：00

会 場：沖縄県立博物館講堂 ※参加費1,000円（材料費）



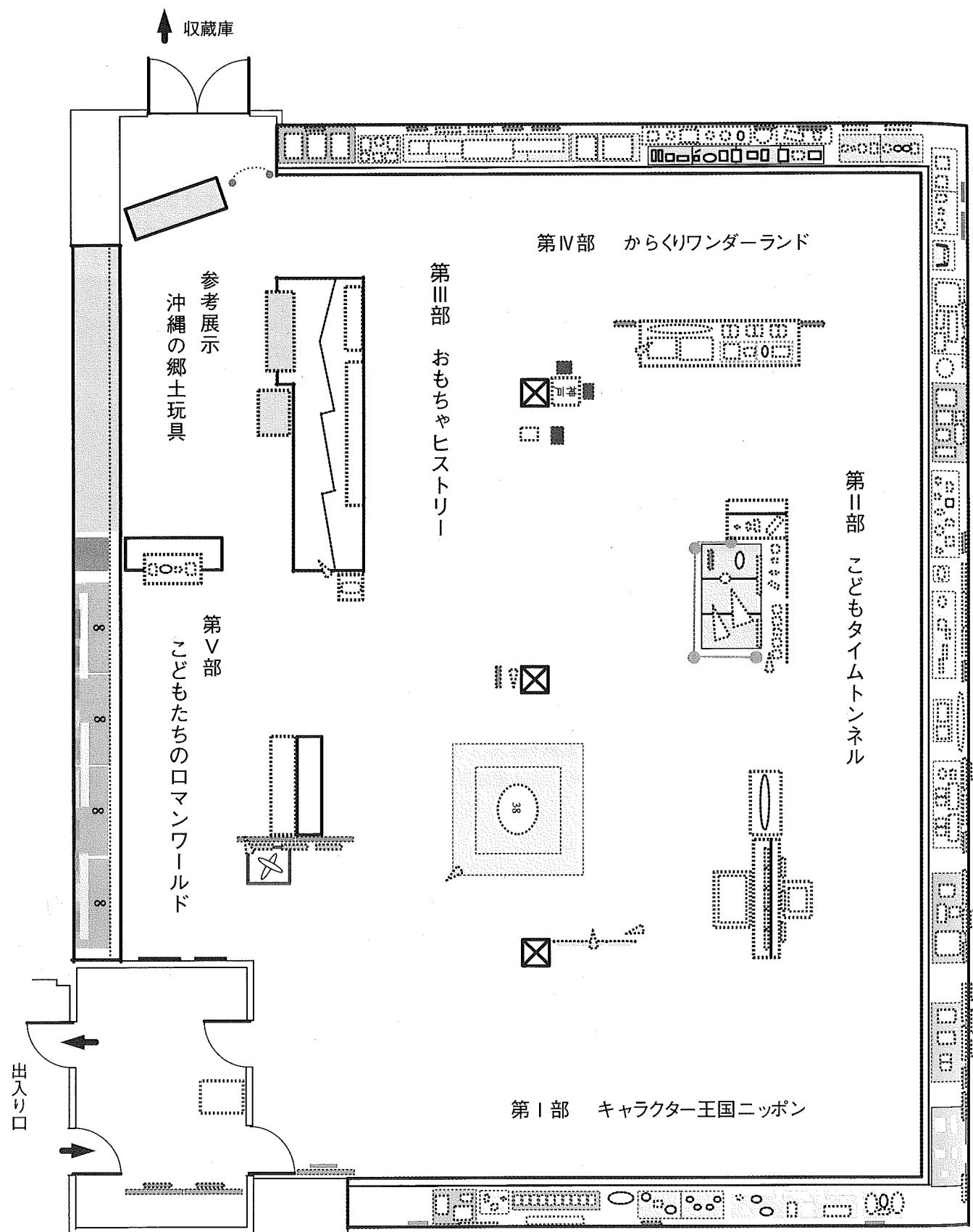
(3) 特別ミニシアター

題 名：「ゴジラ～第1作～」（上映時間1時間36分）

「太陽の王子 ホルスの大冒険」（上映時間1時間22分）

日 時：2月26日（土）10：00～／14：00～

会 場：沖縄県立博物館講堂 ※観覧無料



平成16年度 特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会
～入江正彦 児童文化史コレクション～」 展示配置図

4. 企画展

○国際博物館の日「博物館を知ろう」パネル展

(担当：仲座、大城)

会期：平成16年5月11日（火）～23日（日）

会場：県立博物館スロープ

【開催趣旨】

国際博物館会議（通称 I C O M : イコム）は、全世界における博物館活動の普及と向上を目的として、5月18日を「国際博物館の日」と定めた。日本博物館協会の会員である当博物館もこれに賛同し、多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館や社会教育の意義をさらに普及・啓発することを目的としてパネル展を開催する。

【展示内容】

I C O M の説明及び世界の博物館についてのパネル、県立博物館の歴史・活動・これまでの刊行物等の展示を行った。

主な展示資料

- ・パネル展の趣旨・目的
- ・世界の博物館・美術館（写真パネル）
- ・県立博物館のあゆみ（文字・写真パネル）
- ・県立博物館の活動（各展示会、教育普及事業、ボランティア、友の会、沖縄県博物館協会）
- ・刊行物、ポスター等

○平成16年度県立博物館広報展

(担当：座覇 泰)

会期：平成16年5月24日（月）～28日（金）

会場：沖縄県庁1階ロビー（県民ホール、東側半分のオープンスペース）

【開催趣旨】

県民並びに県庁職員に県立博物館の存在を知らしめるとともに、より一層の親しみを持ってもらい、一人でも多くの県民に足を運んでもらうことを目的とする。

【展示内容】

県立博物館の歴史と活動、収蔵品についてのパネル、企画展のポスター等を製作し展示した。今回は実物展示として、「玉陵石獅子」レプリカ一対を会場に配置した。



1、県立博物館の歴史と活動歴史、活動（資料収集、調査研究、展示、教育普及）、ボランティア活動、友の会活動、刊行物、沖縄県博物館協会

2、県立博物館収蔵物（展示物）
古生物、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸

○パネル展「博物館新館ができます～博物館新館の広報展～」(担当：仲座、稻福)
 会期：平成16年8月3日(火)～29日(日)
 会場：県立博物館ロビー

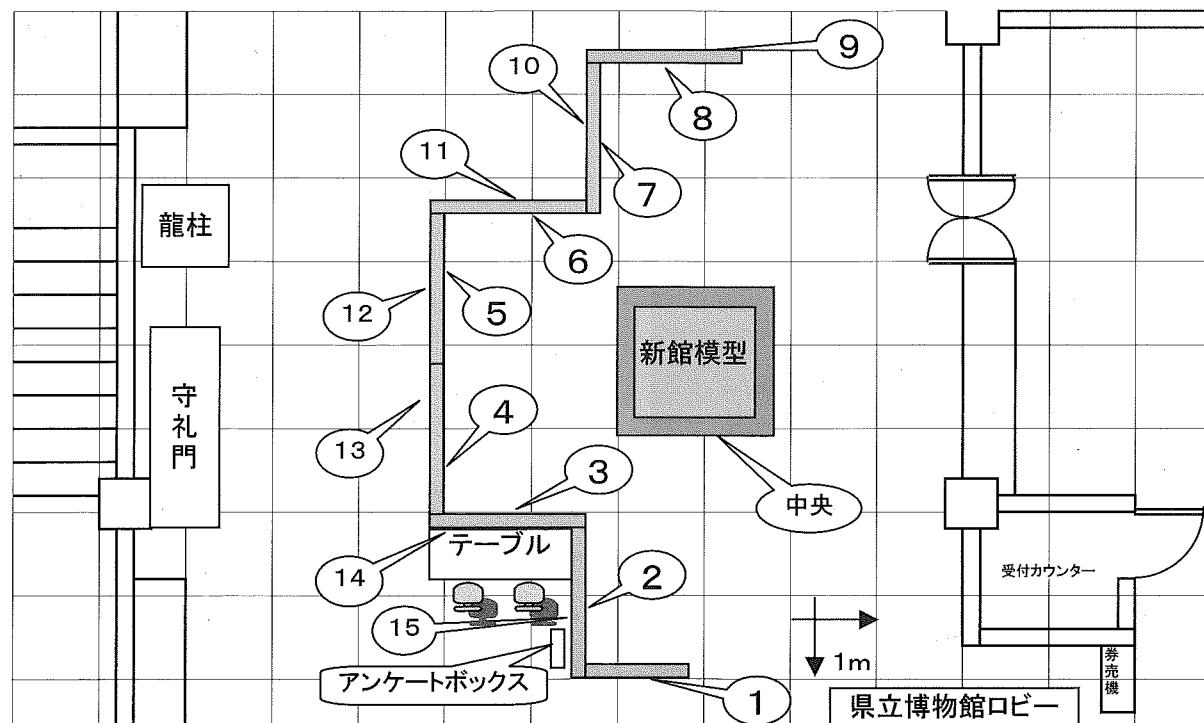
【開催趣旨】

博物館新館・美術館の建築及び展示の設計プランを紹介することにより県民への周知を図るとともに、博物館新館・美術館についての関心を喚起することを目的とする。

【展示資料一覧】

配置	No.	資料名	数量	配置	No.	資料名	数量
1	1	立て看板	1	9	25	タイトル(中)「部門展示」	1
	2	開催文	1		26	部門展示概要	1
2	3	タイトル(大)「施設概要」表示	1	10	27	自然史部門展示イメージパース	1
	4	建物俯瞰図	1		28	考古部門展示イメージパース	1
3	5	建物配置図	1	11	29	美術工芸部門展示イメージパース	1
	6	敷地・建物概要	1		30	歴史部門展示イメージパース	1
4	7	施設概要	1	12	31	民俗部門展示イメージパース	1
	8	平面図	1		32	タイトル(中)「屋外展示」	1
5	9	エントランスホールCG(木陰の庭)	1		33	屋外展示の概要	1
	10	博物館屋外展示場(美の庭)	1		34	屋外展示イメージパース	1
6	11	美術館屋外展示場(時の庭)	1		35	屋外展示配置図	1
	12	タイトル(大)「博物館新館展示概要」表示	1	13	36	タイトル(大)「博物館新館教育普及事業」	1
7	13	展示概要	1		37	教育普及概要	1
	14	常設展示室俯瞰図	1		38	ふれあい体験室イメージパース	1
8	15	テーマ構成一覧	1		39	体験キット一覧	2
	16	常設展示室ゾーニング図	1		40	タイトル(大)「情報発信」表示	1
9	17	タイトル(中)「総合展示」	1		41	情報発信概要	1
	18	総合展示概要	1		42	情報センターイメージパース	1
10	19	常設展示室入り口アプローチ	1		43	情報センター平面図	1
	20	「シマの自然とくらし」イメージパース	1	中央	44	タイトル(大)「博物館新館・美術館建築模型」	1
11	21	「シマの自然とくらし」展示の概要	1		45	博物館新館・美術館模型	1
	22	「王国の繁栄」イメージパース	1		14	46 タイトル(大)「関係資料閲覧コーナー」	1
12	23	「薩摩侵攻と琉球王国」イメージパース	1		15	47 タイトル(大)「アンケートコーナー」表示	1
	24	「沖縄の近代」イメージパース	1	合計			47

【展示平面図】



○企画展「新収蔵品展 一平成15年度収蔵資料一」

(担当：久場、田中)

会期：平成16年6月22日（火）～7月18日（日）

会場：企画展示室

予算額：487,000円

【開催趣旨】

企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管された諸資料を一堂に集め、広く一般公開するとともに、今後の展示や研究等に活用することを目的として実施するものである。

【事業内容】

平成15年度に寄贈・収集・購入された諸資料を自然、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野に分類し、博物館2階の企画展示室で展示・公開する。

初日には、開会式において寄贈者へ感謝状を贈呈し、テープカットに参加していただいた。

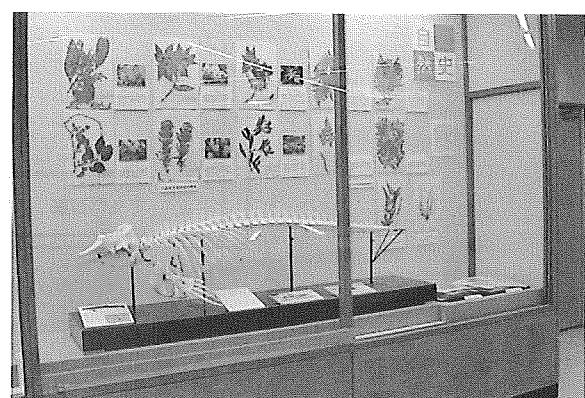
【展示内容】

平成15年度は、寄贈・収集・購入により3,530点が収蔵された。分野別にみると、歴史分野では、蔡文溥『四本堂詩文集』、『四本堂詩文集』影印本、伊波普猷著『古流球』（初版本）、原田萬雄著『琉球を守護する神』、原田萬雄訳注『周煌琉球国志略』等の資料が寄贈された。とりわけ『四本堂詩文集』は、唯一現存する物件で大変貴重である。自然分野では、コマッコウ1体のほぼ完全な骨格標本が収集された。コマッコウは沖縄近海に生息し“ハクジラ類”に属する。本資料の入手により、化石クジラ類との比較検証が可能となった。美術工芸分野では、田中俊雄の研究資料（執筆原稿、写真、資料類、裂地、御絵図、着物、書籍、反物他）等の寄贈があった。本資料は、昨年度の特別企画展の展示資料で、実弟の田中駒蔵氏から寄贈を受けた。沖縄織物を研究するうえで大変貴重である。民俗分野では、麻姓田名家位牌、玉陵内厨子甕ポジ・フィルム299点等が寄贈された。田名家位牌は、那覇の筆頭士族である麻姓の本位牌（田名弘氏寄贈）である。ポジ・フィルムは玉陵修理工事（昭和52年竣工）の際に歴代国王の厨子甕を撮影したもので貴重な記録である。

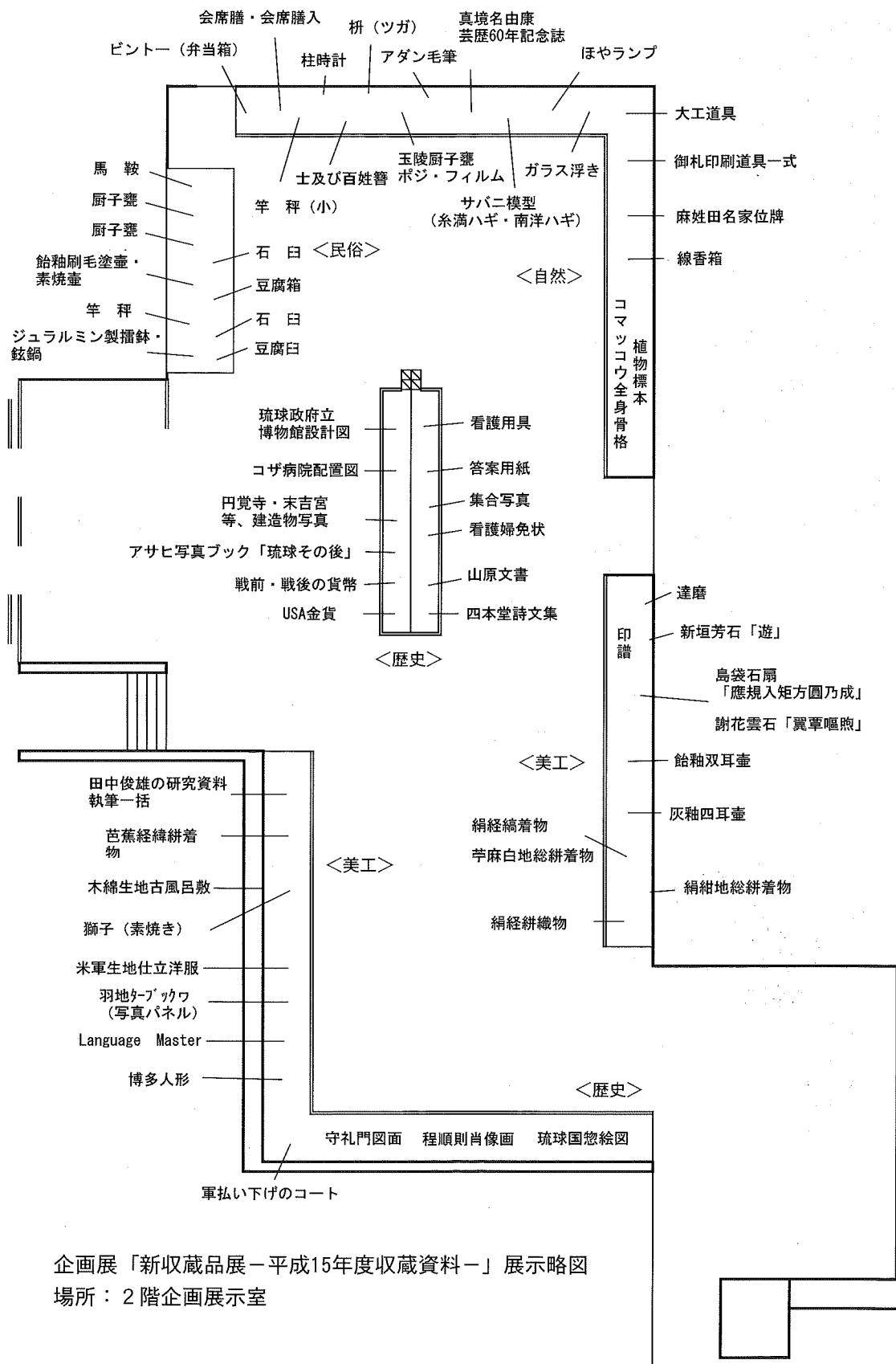
なお、平成15年度に収蔵された全資料目録および寄贈者全員の氏名は、平成16年度に刊行した図録「新収蔵品展－平成15年度収蔵資料一」に掲載した。



展示の様子（美工分野）



展示の様子（自然分野）



企画展「新收藏品展－平成15年度収蔵資料－」展示略図
場所：2階企画展示室

○企画展「沖縄歴史を綴る秘宝展」

(担当：赤嶺 敏)

会期：平成16年8月10日（火）～29日（日）

会場：企画展示室

【開催趣旨】

沖縄コレクター友の会は、有識者から構成され、県民への情報・技術・研究の成果を提供することを目的として、2001年11月に設立された団体である。趣味や研究のために、琉球（沖縄）を中心とした貴重な資料を収集し、会員の中から展示会を企画し、広く県民への資料公開を望む声が高まってきた。本展示会は、構成員それぞれの名品を持ち寄り、県民への知的好奇心を掻き立てる機会を設けるために企画された。

【開催形式】

主催：沖縄コレクター友の会

共催：沖縄県立博物館

【主催者名簿】

眞栄城 勇（会長）、新城榮徳、亀島 靖、國頭正伸、照屋重男、宮城宏友、眞喜志康徳、翁長良明、伊禮吉信、上原 実 他

【展示内容】

（1）歴史

江戸上り関連資料や橋の欄干をはじめ、戦前戦後の軍事関連資料、明治期の引札・文庫本や書籍などの貴重資料を展示した。

（2）民俗

昔の遊び道具や鶯籠、煙草に関わる資料、辻町から収集された簪、金細工の資料などを展示した。

（3）美術工芸

沖縄の焼物や沖縄に影響を与えた地域の焼物、古い年代の明記されたはかりの錘を展示した。

（4）その他

考古資料の貨錢を展示した。

会期中の観覧者は2,947人で、盛況のうちに終了した。

一般県民が自らの資料を博物館に展示した、という意味で、大きな意義があったと考えられる。また、展示解説も博物館友の会の会員が行い、教育文化の振興に寄与する取り組みになつたと思われる。

本行事にあたり、開催を決定する時期が遅れたため、展示計画や資料の取り扱いなど事前の確認が不十分な点があった。今後、展示室を活用しての共催行事においては、規約や必要経費等確認事項の整備が必要である。



企画展「沖縄歴史を綴る秘宝展」展示略図

場所：2階企画展示室

○企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」

(担当：田中 聰)

会 期：平成16年11月9日（火）～12月12日（日）

会 場：沖縄県立博物館スロープおよび企画展示室

予算額：593,000円

【開催趣旨】

沖縄県を含む琉球列島は、複雑な地史的変遷をへてきわめて特異な陸上生物相を形成しており、世界自然遺産の候補地ともなった。その一方で、各種開発の結果これらの生物群は減少の一途をたどっている。それに加えて、近年はほかの土地から持ちこまれた外来種（alien species：エイリアンスピーシーズ）が定着・増殖した結果、農作物への被害をはじめ、人間生活への被害が生じている。また、捕食・競争・病気の伝搬などにより在来種は大きな打撃を受けており、島によっては絶滅に瀕している種もみられる。この状況が続いたり、新たな外来種が定着することによって、在来の生態系が大きな痛手を受けることは容易に想像できる。

近年新たに発見される外来種には、一般市民による「悪意なき遺棄」に起因するものが多くなっている。そこで、新たな外来種問題が生じないよう、沖縄県内における外来種やそれに影響を受けている在来種の現状を伝えることを本展示会の目的とする。

【開催形態】

主 催：沖縄県立博物館

後 援：沖縄県高等学校理科教育研究協議会・沖縄県理科教育協会・沖縄県高等学校長協会・沖縄県中学校長会・沖縄県小学校長会・沖縄県獣医師会・沖縄生物教育研究会・沖縄生物学会

【事業概要】

展示会に加えて、次の事業を実施した。

(1) 講演会

演 題：「海をこえて持ちこまれた動物たち」

講 師：太田英利（琉球大学教授）

日 時：平成16年12月4日（土）午後2時～4時

場 所：沖縄県立博物館講堂

(2) 図録の刊行

外来種の問題を一人でも多くの人に伝えるため、図録は無料配布できる小冊子を作成した。来館者だけでなく、県内小中高校、その他の機関に配布した。

【展示会の構成および展示資料】

◎スロープ

島々の生き立ちと特異な動物たち

琉球列島の特異な動物相が、長大な時間をかけた大陸等との接続・分断という複雑な地史形成されてきたかということを展示した。

◎企画展示室（展示資料のリスト）

(1) 特異な動物たち

資 料：イリオモテヤマネコ、ケナガネズミ、オリイオオコウモリ、アマミヤマシギ、カラスバト、ヤンバルテナガコガネ、フタオチョウ、コノハチョウ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、キンバト、アカヒゲ、ヤエヤマセマルハコガメの剥製標本

(2) 島の動物はなぜ外来種に弱いのか

外来種が在来の生態系にとってどのような問題を引き起こすのか、また、島の生態系がいかに外来種に弱いのかということをグアム島の事例を紹介し、解説した。

(3) 沖縄に持ちこまれた動物たち

動物群別に、剥製標本・複製標本・封入標本・液浸標本等の資料を展示するとともに、それらの種の現状や引き起こす問題点について解説した（解説パネルの内容は省略）。

哺乳類：ジャワマングース、ヤンバルクイナ（餌動物）、マングースのワナ、マングースの糞内容物、ニホンイタチ、ニホンイタチの糞内容物、ノネコ、ノネコの糞内容物、カイウサギ、ドブネズミ、クマネズミ

鳥類：インドクジャク、オオクイナ、ミフウズラ、キジ、ヒクイナ、アミハラ、シロガシラ

爬虫類：タイワンスジオ、タイワンハブ、キノボリヤモリ、オガサワラヤモリ、グリーンアノール、ニホンスッポン、ミシシッピアカミミガメ

両生類：シロアゴガエル、オキナワアオガエル、ウシガエル、オオヒキガエル

魚類：カワスズメ、マダラロリカリ亞、コイ、オオクチバス、メダカ、カダヤシ、グッピー

昆虫以外の無脊椎動物：アフリカマイマイ、スクミリンゴガイ、アメリカザリガニ、ハイイロゴケグモ、ニューギニアヤリガタリクウズムシ

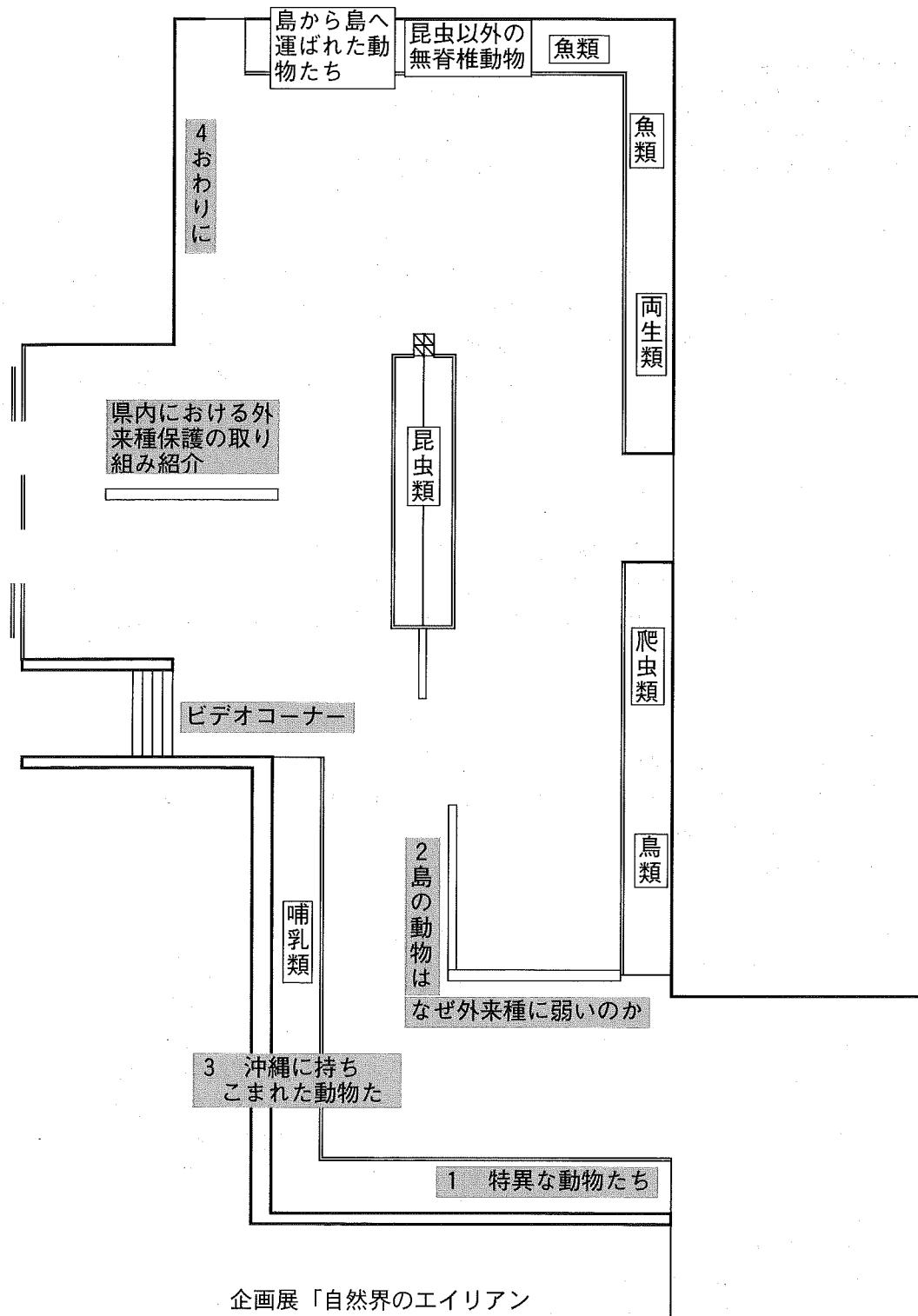
昆虫類：ヘラクレスオオカブト、ネプチューンオオカブト、コーカサスオオカブト、アトラスオオカブト、アクタエオンゾウカブト、エレファスオオカブト、グラントシロカブト、ゴホンツノカブト、西原町で採集されたアトラスオオカブト、ニジイロクワガタ、パープルキンイロクワガタ、オウゴンオニクワガタ、セアカフタマタクワガタ、中国産オオクワガタ、ダイオウヒラタクワガタ、パラワンオオヒラタクワガタ、本土産カブトムシ、オキナワカブトムシ、本土産ノコギリクワガタ、オキナワノコギリクワガタ、サキシマヒラタクワガタ、オキナワヒラタクワガタ、ダイトウヒラタクワガタ、マツノマダラカミキリ、ウリミバエ、イモゾウムシ、アリモドキゾウムシ

島から島へ運ばれた動物たち：サキシマハブ、リュウキュウヤマガメ、セマルハコガメ、ヤエヤマイシガメ、ミヤコヒキガエル、ヒメアマガエル、ヌマガエル、サキシマヌマガエル

(4) おわりに

解説パネルにより、本展示会を総括した。また、当館の向かいにある「龍潭」が、今や外来種のるっぽと化している現状を示し、現場での観察へ誘った。

また、最後に「県内における在来種保護の取り組み」として、沖縄県獣医師会等の取り組みを紹介した。



企画展「自然界のエイリアン
～海をこえて持ちこまれた動物たち～」
展示略図（2階企画展示室）

5. 移動博物館

○第29回移動博物館

(担当：伊波一男)

会期：平成16年11月19日（金）～20日（土）2日間開催

開催地：北大東村

主催：沖縄県立博物館、北大東村、北大東村教育委員会

【開催趣旨】

本県は琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第29回目は北大東村において開催した。

【内 容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈野外観察会〉を実施した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然歴史、くらし」の2つの大きなテーマから構成した。また展示会場内にビデオコーナーを6ヶ所設け、各コーナーの展示に関連するビデオを上映した。さらに自然について学ぶ野外観察会を合わせて実施した。

【展示会】

会 場：北大東村立北大東村地域スポーツセンター

会 期：平成16年11月19日（金）～20日（土）2日間・午前9時～午後5時

対 象：幼・小・中・高校生、一般

観覧料：無 料

【ビデオ放映】

大むかしの生物コーナー	恐竜関連映像
沖縄の自然コーナー	生物関連映像
／＼先史・古代文化コーナー	港川人関連映像
／＼琉球王国の成立と海外貿易コーナー	琉球王国関連映像
／＼美術工芸コーナー	伝統工芸関連映像
／＼くらしコーナー	民俗関連映像

【関連事業】

(1) 北大東島文化財めぐり

・期 日：平成16年11月20日（土）

・場 所：北大東民俗資料館及び北大東島内文化財所在地

・講 師：沖縄県立博物館学芸員（嵩原建二）

・参加者：北大東村民（参加者を北大東教育委員会で募集）

(2) アウトリーチ活動

① 教育普及書作成（北大東の自然と文化ガイドブック）

② 黒糖づくり体験学習

・期 日：平成16年11月19日（金）午前9時～

・場 所：北大東村立北大東小中学校

・講 師：沖縄県立博物館指導主事（玉城善哲）

③ 北大東民俗資料館展示解説ボランティア養成講座

- ・期日：平成16年11月20日（土）
- ・場所：北大東民俗資料館
- ・講師：沖縄県立博物館学芸員（嵩原建二）
- ・参加者：北大東村教育委員会で募集

④ 博学連携授業（出前授業）

- ・期日：平成16年11月18日（木）午後2時～
- ・場所：北大東村立北大東小中学校
- ・内容：化石のレプリカづくり
- ・講師：沖縄県立博物館学芸員（座霸 泰）

【入場者数】

展示会	344人
出前授業	60人
黒糖づくり体験	50人
野外観察会、ボランティア養成講座	30人
合計	484人

【展示品目録】

1. 古生物・地質

○骨格標本

マンモス、サウロロフス、タルボサウルス頭骨、プロバクトサウルス、パレイアサウルス、古代鯨ケトテリウム

○化石標本

アンモナイト石版、大型アンモナイト、サンヨウチュウ、ハロビア、カルカラドン、マンモスの臼歯、マンモスの体毛

○沖縄の化石

ミヤコノロジカ頭骨標本、リュウキュウジカ角、リュウキュウムカシキヨン角、ミヤコノロジカ角、ミヤコノロジカ下顎骨、リュウキュウジカ下顎骨、リュウキュウイノシシ下顎骨、北大東アホウドリ化石（尺骨）、南大東アホウドリ化石（頭骨）

○岩石

水晶、アメジスト、ガーネット、方解石、レインボーストーン、港川石灰岩、久米島安山岩、粟国凝灰岩、石垣島センリヨク岩、伊平屋島チャート

○パネル

地質時代区分表、象の進化、リュウキュウムカシキヨン、リュウキュウジカ、ミヤコノロジカ

2. 自然史

○鳥類剥製標本

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、ツバメチドリ、コノハズク、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、トラツグミ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、チョウゲンボウ、カワセミ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、カワウ、セイタカシギ、ミヅゴイ、アマサギ、オオクイナ、ムラサキサギ、カンムリワシ、コミミズク、コハクチョウ

○哺乳類剥製標本

オリイオオコウモリ、マングース、ケナガネズミ

○爬虫類剥製標本

ヒメハブ、ハブ、セマルハコガメ

○両生類液浸標本

ウシガエル、イシカワガエル、ホルストガエル、ナミエガエル、イボイモリ

○写真パネル

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナキマダラセセリ、オオコノハズク、コノハズク、オオクイナ、ヒクイナ、トビ、ムラサキサギ、クロツラヘラサギ、サシバ、タマシギ、ダイトウオオコウモリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、アオサギ、カラスバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノグチゲラ、カツブリ、パン、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロタヒバリ、オオチドリ、アマミヤマシギ、アマサギ、キヨウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、ケラマジカ、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、セイタカシギ、カルガモ、イシカワガエル、アオサギ

3. 考古

○資料

港川人想定復元全身像（復元）、港川人頭骨（複製・具志頭村港川フィッシャー遺跡）、爪形文土器（嘉手納町野国貝塚）、荻堂式土器（嘉手納町嘉手納貝塚）、市来式土器（浦添市浦添貝塚）、大山式土器（宜野湾市大山貝塚）、くびれ平底土器（複製・恩納村熱田貝塚）、尖底土器（勝連町津堅第二貝塚）、骨製品（嘉手納町嘉手納貝塚）、貝製品（勝連町津堅第二貝塚）、石器（石斧、磨石、石皿）、石鏃（糸満市兼城上原第二貝塚）、貝斧（城辺町浦底貝塚）、自然遺物（貝殻・獸魚骨）、貝輪の材料ゴホウラと切断見本、ゴホウラ製貝輪（久米島大原貝塚）、滑石製石鍋（長崎県出土）、カムイヤキの壺（久米島ヤジャーガマ遺跡）、高麗瓦（浦添市浦添グスク）、天目茶碗（那覇市御物グスク）、青磁碗（勝連町勝連城跡）、青磁盤（石垣市シタダル遺跡）、白磁小皿（石垣市シタダル遺跡）、グスク土器（久米島ヤジャーガマ遺跡）、染付碗・杯（石垣市フルスト原遺跡）、外耳土器（石垣市平久保遺跡）、円盤状製品（那覇市旧中城御殿跡）、炭化米（久米島下地原洞穴遺跡）、線刻石板（北谷町採集）

○写真パネル

発掘のようす（嘉手納町野国貝塚A地点）、具志頭村港川フィッシャー遺跡（近景）、沖縄原始・古代史年表、沖縄の先史文化、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、層の重なり、古代人の暮らし、貝塚の遺物散布状況、読谷村渡具知東原遺跡（遠景）、貝輪装着人骨（伊是名村具志川島遺跡群）、改葬人骨出土状況（伊是名村具志川島遺跡群）、装身具（貝・骨製品）、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝の道、石器の使用予想図、グスクの性格、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）

4. 歴史

○資料

明孝宗勅諭、旧首里城正殿鐘（複製）、円覚禪寺記（拓本）、国王頌徳碑（拓本）、琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円通宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禧通宝、端平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳通宝、乾隆通宝、鳩目錢10枚（一括）、寛永通宝3束、リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8個連）、リング4（小勾玉にビーズ付き）、尚育王の印、かんざし、おもろさうし（複製本）〈卷1・7〉、中山世鑑（複製本）〈卷1・3〉、沖縄志〈卷1・2〉、琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）

○写真パネル類

琉球国絵図、那覇の市場（ペリー日本遠征記）、那覇郊外の風景（ペリー日本遠征記）、僧侶と士族（バジルホール航海記）、王統系図、尚円王御後絵〈鎌倉芳太郎氏撮影〉、首里城正殿〈鎌倉芳太郎撮影〉、円覚寺仏殿〈鎌倉芳太郎撮影〉、崎山から首里城繼世門風景〈鎌倉芳太郎撮影〉、識名園〈坂本万七撮影〉、玉陵〈坂本万七撮影〉、サーティグルマ〈坂本万七撮影〉、竹製品を売る店〈坂本万七撮影〉、木臼つくり〈坂本万七撮影〉、壺屋風景〈坂本万七撮影〉、物を頭に乗せ運

ぶ女性〈坂本万七撮影〉、首里金城の風景〈坂本万七撮影〉、三人の婦人〈坂本万七撮影〉、魚市〈坂本万七撮影〉、魚売り〈坂本万七撮影〉、ハンタン山〈坂本万七撮影〉、茅葺き風景〈坂本万七撮影〉、守礼門、首里城繼世門外の赤田町〈鎌倉芳太郎撮影〉、十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏を呼びかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民、波之上宮、瓦礫と化した首里教会、憔悴しきった老人、D D T散布、戦後のヤミ市、収容所内で発行したうるま新報、うるま新報、ハワイからの衣類到着、裁縫の授業（終戦直後）、城前小学校での演芸会、第九回沖縄議会の状況—志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、A サインバーの内部・沖縄市、B 52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビでみまる屋良主席、通貨交換所風景、ランドサット沖縄諸島写真

5. 美術工芸

○絵画

首里・那覇鳥瞰図、進貢船の図

○漆器

黒漆山水螺鈿六角食籠、朱漆山水楼閣人物描絵菊花形食籠

○彫刻

玉陵石獅子（レプリカ）

○陶磁器

緑釉抱瓶、線彫唐草文からから、黒釉巴文嘉瓶、荒焼徳利、赤絵菊花文対瓶、赤絵山水文急須、黒釉獅子、緑釉線彫魚文徳利

○書跡

玉川朝達「梅花」、中山副使向元模「対句」、宜湾朝保短冊和歌「新樹風」

○衣装

絹・アマンダ地総絣上衣（わたぢん）、木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳（複製）、紺地読谷山花織ティサジ、イタハナシダレ（板花織ティサジ）、宮古上布裂帖

○パネル類

紅型製作パネル、八重山上布製作パネル、久米島紬製作工程写真パネル

6. 民俗

○資料

フィーラ（奄美大島）、ヒラ（沖縄本島南部）、ヒラ（沖縄本島南部）、宮古ヘラ（宮古島）、ピラ（石垣島）マーピラ（波照間島）、ヘラ（沖縄本島中部）、アサンザニ（沖縄本島北部）、堀串（沖縄本島中部）、カノース（宮古島）、ンプリヤ（宮古島）、ヒラグエ（平鉤）、タマター（二股鉤）、ミマター（三股鉤）、イシグエ（石鉤）、ティール、バーキ、オーダー、アンツク、ガンシナ、おもがい装着模型、沖縄の漁具、ウミフゾウ、ウミバク、ユートウイ、エーク、ミーガン、ワリジケ網（大神島）、ウルワイチズカ（伊平屋島）、ウミディル、タマンバーキ、フツ（わらじ）、ソーキ、ミーザーキ、ユナバーイ、ウーバーラ、ブーイリマグ（宮古島）、ガイズ、ガイジ（波照間島）、カマンタ、ハマボウ丸オーダー、アンディラ（宮古島）

○写真パネル類

沖縄の祭り、竹と茅の民具、沖縄の運搬方法、ヘラと堀串、与論島の十五夜踊り、国頭村奥のシヌグ、国頭村安田のシヌグ、国頭村比地のウンジャミ、伊平屋村田名のウンジャミ、勝連町平敷屋のエイサー、那覇大綱挽、久高島のイザイホー、久米島の六月ウマチー、来間島のヤーマスプナカ、宮古平良市狩俣のウヤガン、宮古平良市島尻のパーントゥ、多良間島の八月踊り、石垣市四箇村の豊年祭、石垣市川平のマユンガナシ、石垣市登野城のアンガマ、与那国島のカンブナカ

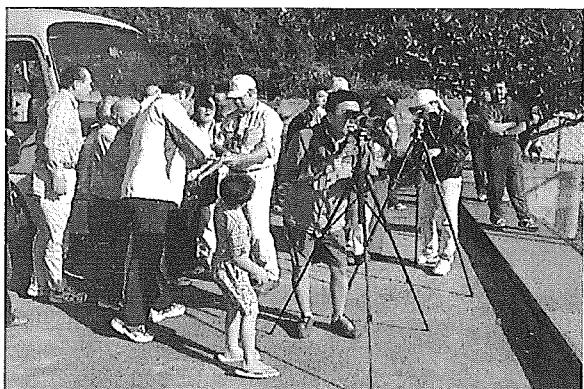
【移動博写真資料】



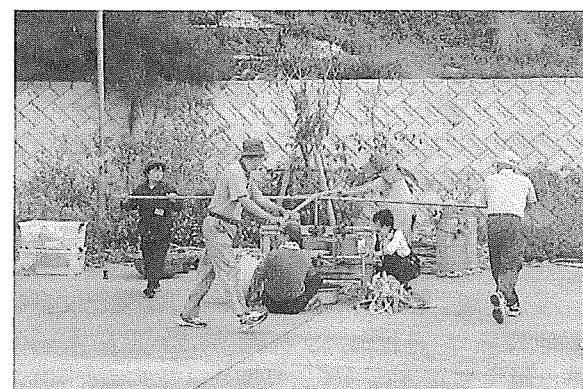
展示会見学のようす



出前授業風景



自然観察会

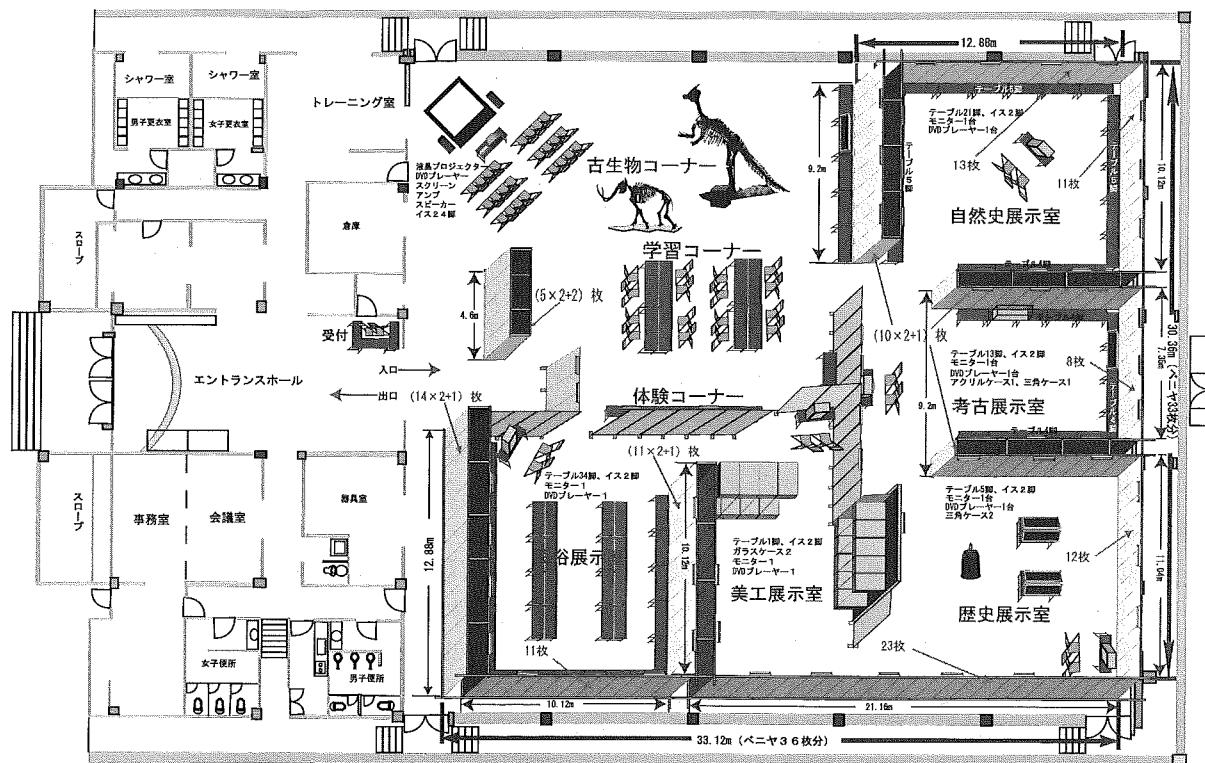


黒糖づくり体験学習

【展示会場図】

第29回移動博物館展示会場図

会場：北大東村地域スポーツセンター



V. 教育普及活動

1. 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成16年度の大きな特徴としては、一つめに、総合的な学習の時間の導入にともなう体験学習用道具の貸し出し業務や指導者のための体験学習講習、小学校4年生による社会科学習の一環としての民具体験学習が挙げられる。二つめには、文化講座「福建と沖縄の祖先祭祀」「考古学と歴史研究」などの講座に多くの受講者から好評をいただいた。三つめには、博物館体験学習教室での教育関係者や一般成人を対象にした「総合的な学習のための豆腐づくり」「総合的な学習のための黒砂糖づくり」では教師のみならず多くの地域指導者の受講が目立ったことが挙げられる。「木の実でおもちゃをつくろう」では親子で子ブタやウサギのおもちゃ作りに多くの受講者が詰めかけた。日頃から地域の人々の興味や関心に目をむけながら、沖縄の歴史・文化・自然に関する情報をこれからも発信していきたい。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施していきたい。

教育普及課の事業への参加総数は、3,497名。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（346回～356回）
2. 第29回移動博物館（北大東村）の開催
3. 博物館体験学習教室の実施
4. 博物館シアターにおける映画の上映
5. ボランティア活動事業の実施
6. ホームページの作成
7. 子供放送局事業の実施
8. 博物館を利用する団体への研修
9. 来館者への展示解説
10. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
11. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
12. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
13. 児童生徒への学習相談
14. 団体見学者へのビデオサービス
15. マスコミ等への博物館事業の広報活動
16. 学校や地域等への体験学習用具の貸し出し
17. 博物館友の会への協力

2. 博物館文化講座

(担当：松川聖子)

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて分かりやすく学習することを目的に昭和49年から始まった事業である。講座は毎月1～2回、土曜日もしくは日曜日の午後2時から4時までの2時間を利用して当博物館講堂にて行っている。また、年に数回は野外講座も行っている。

平成16年度は、各分野に関連するテーマで歴史2回、考古2回、美術工芸2回、自然3回、民俗3回の全12回の文化講座を実施した。講座は、講師の体験や研究エピソードを交えつつ、講演・実演・収蔵品解説など、わかりやすい内容で受講者が楽しく学べるようにし、そのうち4回は野外講座を行った。

また、平成9年度から始めた「受講者アンケート」も継続して行い、集計している。今後も受講者の声を当講座に反映させるため、アンケート調査を継続していく。

次に、平成16年度開催した文化講座の概要について紹介する。

○平成16年度開催博物館文化講座一覧（受講者総数 872名）

第345回「戦後沖縄の女性」

講 師：小野沢 あかね（琉球大学 助教授）

日 時：平成16年5月15日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：戦後の沖縄県婦人連合会の活動をとおして、沖縄の女性の境遇や役割を考える。

参加者：59名

第346回「金細工（カンゼーク）の技」

講 師：又吉 健次郎（金細工師）

日 時：平成16年6月19日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：金細工師を講師に迎え、代々伝わる伝統の技と作品を紹介する。

・「金細工またよし」7代目 又吉健次郎氏の工房を一部再現

・ジーファー（簪）の制作工程を撮影したビデオの解説

・当館収蔵の金細工作品、又吉健次郎氏自身の作品、先代（6代目）の作品を一堂に展示

参加者：116名

第347回「琉球漢詩について」

講 師：上里 賢一（琉球大学 教授）

日 時：平成16年7月4日（日）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：琉球王国時代に活躍した作家たちが詠んだ「琉球漢詩」を、当館収蔵資料を使いながら紹介・解説する。

参加者：37名

第348回「沖縄の地形・地質・化石」

講 師：座霸 泰（沖縄県立博物館 指導主事）

日 時：平成16年7月31日（土）

場 所：残波岬（読谷村）、今帰仁城跡（今帰仁村）、古我地（名護市）

内 容：野外で沖縄島の成り立ちや地形・地質について学び、鉱物や化石の採取をする。

※当講座を受講した方は、8月7日～8日の体験学習教室『化石のレプリカをつくろう』に優先的に参加できる。

参加者：41名（野外講座のため定員40名）

第349回「風俗画」

講 師：津波古 聰（沖縄県立博物館 学芸課長）

日 時：平成16年8月21日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：当館収蔵品を使用して、庶民生活の様子を描いた「風俗画」を紹介・解説する。

参加者：59名

第350回「近代沖縄における泡盛の変遷」

講 師：萩尾 俊章（沖縄県教育庁文化課文化財係 係長）

日 時：平成16年9月18日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：明治期以降において、泡盛の製造が産業化されるまでの過程について解説する。

参加者：81名

第351回「福建と沖縄の祖先祭祀」

講 師：小熊 誠（沖縄国際大学 教授）

日 時：平成16年10月16日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：福建と沖縄の祖先祭祀について、位牌祭祀と墓祭祀がどのように行われるのか、両者の類似点と相違点を比較しながらそれぞれの特徴について整理・解説する。

参加者：114名

第352回「海をこえて持ちこまれた動物たち」

講 師：太田 英利（琉球大学熱帯生物圏研究センター 教授）

日 時：平成16年12月4日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：なぜ「外来種」が問題なのであろうか？「固有種の宝庫」といわれる沖縄島をはじめとする琉球の島々で、現在、外来種が引き起こしているさまざまな保全上の問題について具体例を挙げつつ整理し、望まれる対策について検討・解説する。

参加者：97名

第353回「干潟の野鳥観察会」

講 師：嵩原 建二（沖縄県立博物館 充指導主事）

日 時：平成16年12月18日（土）

場 所：漫湖干潟・瀬長干潟

内 容：干潟の野鳥や、野鳥の生態を支える動植物について解説し、観察を行う。

参加者：34名（野外講座のため定員40名）

第354回「グスク巡り～中部地区～」

講 師：當眞 翔一（沖縄県立博物館 館長）

日 時：平成17年1月23日（日）

場 所：中城城跡（中城村・北中城村）、座喜味城跡（読谷村）、山田城跡の碇石（恩納村）、勝連城跡（勝連町）

内 容：沖縄本島中部地区にあるグスクを巡検し、その構造の特徴などを詳しく解説する。

参加者：43名（野外講座のため定員40名）

第355回「首里の文化財めぐり」

講 師：久場 政彦（沖縄県立博物館 充指導主事）

日 時：平成17年2月19日（土）

場 所：沖縄県立博物館～首里城周辺～首里金城町～首里崎山町～首里鳥堀町～沖縄県立博物館

内 容：沖縄県立博物館の近辺を歩きながら、文化財を分かりやすく解説する。

参加者：23名（野外講座のため定員30名）

第356回「考古学と歴史研究～40年のフィールドワークを通して～」

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館 館長）

日 時：平成17年3月19日（土）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：歴史を研究する上で、考古資料は一体何を語るのか。

“モノ”を通して沖縄の歴史と文化を考え、約40年にわたるフィールドワークを行ってきた当博物館館長が、これまでの研究エピソードを交えて講話をを行う。

参加者：170名

3. 衛星通信を利用したエル・ネット「オープンカレッジ」

(担当：松川聖子)

主 催：文部科学省

受信場所：沖縄県立博物館 講堂

【趣旨】

この事業は、教育・文化・スポーツ・科学技術に関する情報を直接全国に発信する文部科学省の教育情報衛星通信ネットワークを使用して、文部科学省により平成11年度から実施している。

【内容】

エル・ネット「オープンカレッジ」は、文部科学省が運用する衛星回線を使った大学公開講座であり、幅広いテーマの講座を公開している。当博物館では主に沖縄に関するテーマの講座を選択し、上映する。

【取り組みの方法】

- 1、エル・ネット視聴希望の問い合わせがある際に、視聴会場として当博物館の講堂を開放する。
(ただし、当博物館事業が行われる日と重なった場合は、当博物館事業を優先して実施する。)
- 2、「沖縄の自然・歴史・文化について学習する」という目的に合致したテーマでエル・ネット放送が行われるときは、当博物館事業との兼ね合いや、エル・ネット設備の状況、広報の方法を考慮した上で放映を行う。
- 3、エル・ネット上映の際は広報を行い、沖縄県民へ広く周知する。

【総括】

この事業は、沖縄の自然・歴史・文化などについて分かりやすく学習することを目的とした教育普及事業である。そのため当博物館では、沖縄をテーマにした講座の上映を行うものとしている。ただし、第2・第3土曜、第3日曜日には、当博物館の講堂において「博物館体験学習教室」や「博物館文化講座」、「博物館シアター」を実施していることもあり、上映を見合わせる事もある。平成16年度は、博物館事業との兼ね合いや広報周知の方法に問題があり、積極的に上映を行うことはできなかったが、外部からエル・ネット視聴希望の問い合わせがあり、1度の上映を行った。参加者は30名程度であった。

次年度以降は、当博物館事業と調整を図りつつ、上映日を増やすとともに、広報活動を工夫する必要がある。

4. 博物館シアター

(担当：伊波一男)

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために平成6年度から実施している事業である。

自然、歴史、民俗、美術工芸などをテーマにした映像、および芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午前10時と午後2時の2回上映を実施している。平成16年度は、8シリーズ17本の映画を上映した。

シリーズ名と上映内容は以下のとおりである。

【子供の日映画館】

第64回 期 日：平成16年5月1日（土）

映画①：「15少年漂流記」カラーアニメ66分

内 容：少年達の友情と冒険の感動巨編。

映画②：「ロビンソン・クルーソー無人島の冒険」カラーアニメ40分

内 容：船が難破し無人島に取り残されたロビンソンの無人島での冒険を描く作品。

入場者：281名

【戦争について考える】

第65回 期 日：平成16年6月5日（土）

映画①：「戦争～子供たちの遺言～」カラー53分

内 容：戦争の犠牲者はいつも子ども達だった。戦争の犠牲となった子供達を描く。

映画②：「太平洋戦争と沖縄」カラービスタ 35分

内 容：太平洋戦争の地獄の戦場の姿を証言と資料映像で綴るドキュメント。

入場者：146名

【沖縄の記録映画】

第66回 期 日：平成16年7月3日（土）

映画①：「沖縄730道の記録」カラービスタ30分

内 容：沖縄県の道の歴史をたどりつつ、7・30(ナナサンマル)の交通方法の変更の記録。

映画②：「ウリミバエ根絶の記録～総集編～」カラービスタ50分

内 容：沖縄県のウリミバエ根絶までの20年の歴史が描かれている記録映画。

入場者：46名

【夏休み子ども映画館】

第67回 期 日：平成16年8月1日（日）

映 画：「火垂るの墓」 カラーアニメ 120分

内 容：戦争の悲惨さを伝える貴重な作品。14歳の兄と4歳の妹、二人だけで戦争の狂気を乗り越えようとするが。あまりに悲しい結末が待っています。

入場者：176名

【沖縄伝統工芸の世界Ⅰ】

第68回 期 日：平成16年9月4日（土）

映画①：「壺屋の陶器～金城次郎～」カラービスタ26分

内 容：50年の歳月を焼物一筋にかけた金城次郎氏の土と火の芸術を紹介する。

映画②：「壺屋焼」カラービスタ 27分

内 容：300年の伝統を誇る壺屋焼、美しいヤチムンは世界的にも評価が高い。

入場者：87名

【沖縄伝統工芸の世界Ⅱ】

第69回 期日：平成16年10月2日（土）

映画①：「首里織」カラービースタ26分

内容：王朝文化の華である、幻の織物花倉織の再現にかける織女たちの執念。

映画②：「琉球紅型」カラービースタ27分

内容：王朝文化の粹を伝える琉球びんがた。その復興に全情熱を傾けた人々。

入場者：98名

【文化の日特別映写会】

第70回 期日：平成16年11月3日（水）

映画：「琉球の風物」「琉球の民藝」「沖縄」「海の民」他

白黒16mフィルム約100分

内容：戦前の沖縄をとらえた映像群を一同に集めた玉城朋彦氏による映画の解説会。

入場者：558名

【特別ミニシアター】

期日：平成17年2月26日（土）

映画①：「ゴジラ～第1作～」白黒16m 96分

内容：日本映画初の特殊撮影を駆使した、映画史上記念すべき怪獣映画作品

映画②：「太陽の王子 ホルスの大冒険」カラーアニメ82分

内容：悪魔グルンワードと戦う少年ホルスの大冒険。文部省特選。日本アニメの傑作。

入場者：232名

5. 博物館体験学習教室

(担当：玉城善哲)

<事業の経過>

博物館体験学習教室の事業は、学校週5日制に伴う児童・生徒の自主的な活動を支援するための新規事業として、平成5年度から開設してきた。平成5年度から平成12年度までの8年間は、「子ども体験学習教室」の事業名で、小学校4年生以上の親子を対象とする体験学習であった。平成13年度からは子どもたちの興味関心だけでなく県民のニーズも勘案した体験活動として、受講対象者を親子だけでなく、教育関係者や一般まで対象枠を拡大し、事業名も「博物館体験学習教室」に改め、異年齢・異世代が交流し、生涯学習を支援する事業として位置付けるまでに発展してきた。

「サトウキビを栽培して黒糖をつくろう」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館充指導主事）

期 日：平成16年4月24日（土）、10月23日（土）、平成17年1月15日（土）・16日（日）

場 所：県立博物館及び体験農場（西原在）

参 加 者：のべ264名（児童・一般対象）

内 容：当講座は、4回の講座でサトウキビの植え方から育て方、伝統的な製法での黒糖づくりまでを体験する講座である。一回目の講座は天気にも恵まれ、数日前に降った雨の影響もあって、土もやわらかくなり、キビ植え日和となった。サトウキビの芽を丁寧に確認しながら、押し切りや手斧を使って採苗して植え付けていった。植え付け後のサトウキビは発芽もよく、順調に生長していましたが、9月初旬に接近した台風18号の影響で殆どが横倒しの状態になった。倒れたサトウキビの間からはシロバナセンダングサが勢いよく生い茂ってきた。

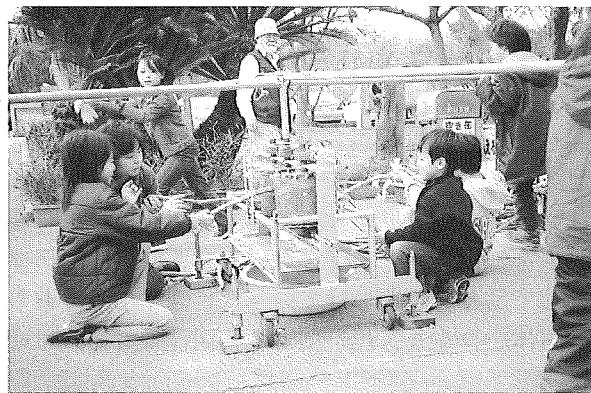
二回目の講座は、草取りが主な活動となった。台風で倒れてしまったサトウキビ畑の草取りは困難を極めていたが、グループの連携プレーによって雑草が少しづつ取り除かれた。

三回目は、サトウキビの刈り取りと縄結びやかつぎ体験をすることができた。サトウキビを根元から切り倒して梢頭部を切り落とすのは子どもたちにとって大変そうであった。最終日の活動は、刈り取ったサトウキビを使って伝統的な製法で黒糖づくりを行った。三転式のさとうきび搾り機の使い方、搾り機でのキビしぼり体験、しぼり汁のこしとり体験、糖度計での糖度検査、リトマス紙による搾り

汁の性質検査、石灰の入れ方と不純物の取り方、シンメーナービでの煮込み方や冷却体験、黒糖の型取り等を体験し、伝統的な製法でおいしい黒糖をつくることができた。



苗の切り取りと植え付け体験



きび搾り体験

「総合的な学習のための豆腐づくり」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館充指導主事）

期 日：平成16年5月22日（土）

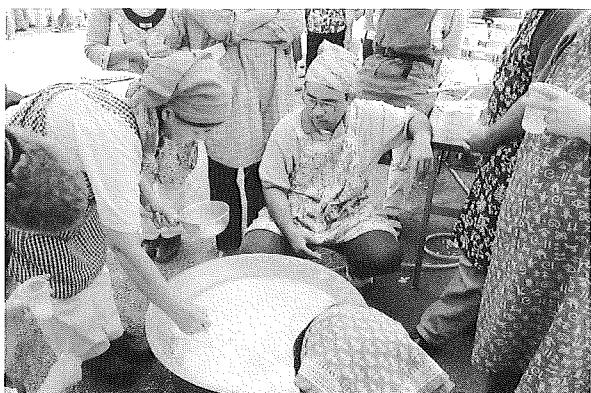
場 所：県立博物館講堂・中庭

参 加 者：40名（教育関係者・一般対象）

内 容：本講座は、学校の「総合的な学習の時間」や家庭・地域における「子どもの居場所づくり」を支援する体験学習として、学校や地域の教育関係者や一般父母を対象にして実施した。当日は、4つの学習グループに編成し、石うすをまわして呉汁を作り出す体験、呉汁を布袋でこしとする体験、苦汁と打ち水を打つ体験、ゆし豆腐づくりの体験、箱詰めをして島豆腐をつくる等の体験をすることができた。石うすに注ぎ水の量を加減しながら石うすをまわすのは経験による積み重ねが大切である。注ぎ水が多すぎると豆腐の味に影響がでてくるからだ。石うすからポタポタ落ちる呉汁を確認しながらの作業は真剣であった。教育関係者の講座のこともあり、グループ同士での情報交換やポイントをチェックしながら終始記録をとる場面も多くみられた。最後にはどのグループも豆腐の旨味を引き出したやわらかくて美味しいゆし豆腐や島豆腐をつくることができた。閉講式では豆腐づくりに大切な大豆選び、水選び、苦汁選びのポイント等を確認しながら講座を締めくくった。



呉汁を確認しながら石うす体験



苦汁体験での真剣な眼差し

「木の実でおもちゃをつくろう」

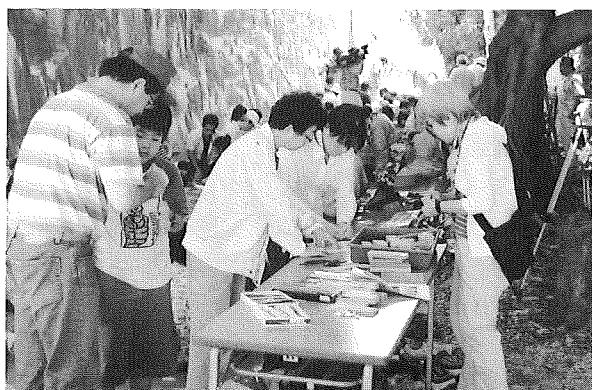
講 師：上運天賢盛先生（野山を愛する会々長）

期 日：平成16年7月24日（土）

場 所：県立博物館

参 加 者：117名（児童対象）

内 容：児童生徒を対象にした夏休み体験教室のこともあり、申し込みをする児童生徒が殺到した。当日は保護者（46名）を含めて117名がチャレンジした。申し込み児童全員を受け入れることで、「山歩きの会」や「博物館ボランティア」にも応援して頂いた。「山歩きの会」のメンバーにはソテツや松ぼっくり等の材料をグループ毎に準備して配布したり、製作活動の指導にまわったりの活躍をして頂いた。子ブタのおもちゃではソテツの実を子ブタに見立てて表情を着色し、竹ひごを工夫して足と尻尾をつけていった。鶴や小鳥のおもちゃでは大小の松ぼっくりを組み合わせながら頭部と胴体をつくり、親子による共同作業で完成させていった。



材料配布をする山歩きの会



会場いっぱいの受講者

「化石のレプリカをつくろう」

講 師：座霸 泰（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：平成16年8月7日（土）・8日（日）

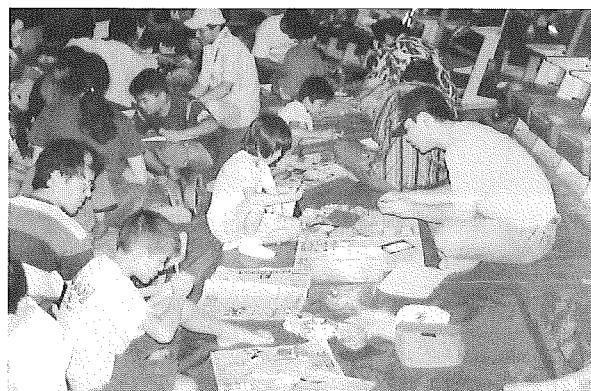
場 所：県立博物館講堂・中庭

参 加 者：のべ380名（児童・一般対象）

内 容：夏休み第2弾の体験学習教室も二日間で親子380名が受講した。受講生は文化講座「沖縄の地形・地質・化石」で採取した化石を使ってレプリカづくりをするグループと博物館の化石資料を使ってレプリカづくりをするグループに分かれて活動した。博物館ボランティア会のメンバーも事前学習会を開き当日の体験教室を支援して頂いた。体験内容も採取した化石のほこり落としから始まり、粘土での型どり学習、石こうの流し込み学習、石こうの整形、レプリカの着色等2日間の講座で自慢の作品が出来上がった。



事前学習会するボランティア会



親子での作品づくり

「竹のおもちゃをつくろう」

講 師：上運天賢盛先生（野山を愛する会々長）
期 日：平成16年8月21日（土）
場 所：県立博物館講堂
参 加 者：69名（児童対象）

内 容：夏休み最後の体験教室も44名の児童と25名の保護者が竹を使ったおもちゃの製作活動を楽しんだ。竹でおもちゃを作るには電動機具の使用や部品加工等に時間を要することから、博物館ボランティア会とともにパート毎の加工を施してから講座を実施した。竹ゼミは鳴き声を出す振動部を慎重に取り付け、胴体に羽根を取り付け着色して仕上げた。竹笛は吹き口と歌い口の呼気の流れに注意しながら作り上げた。水でっぽうは製作経験者が積極的に支援活動して頂き、午前中で3種類の作品をつくることができた。



教え合う受講生



一所けん命

「しっくいシーサーをつくろう」

講 師：宮城光男先生（八洲工房主宰）
期 日：平成16年9月25日（土）
場 所：県立博物館中庭
参 加 者：92名（児童・一般対象）

内 容：45組の親子含めて、92名の受講生が参加した講座は、グループ毎に別れて下地用のしっくいづくりから始まった。しっくい、砂、セメントを調合し練り合わせながらつくる下地用しっくいはシーサーづくりの基本である。下地用のしっくいが出来上がった後、瓦としっくいの使い方や表情の出し方等、講師による実演も行われた。その後、頭部、胴体、足等の骨組みを接着し全体を整形しながら仕上げていった。昼食時間の休憩を挟んでシーサーの全体像が見え始めた頃からは受講生たちにも活気がでてきた。6時間講座の終盤では殆どの受講生がしっくいシーサーを仕上げてお互いの作品を鑑賞し合った。



親子での製作活動



熱氣あふれる会場

「総合的な学習のための黒糖づくり」

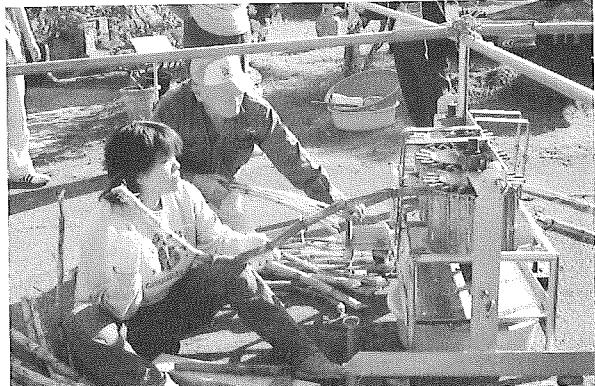
講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館充指導主事）

期 日：平成16年12月11日（土）

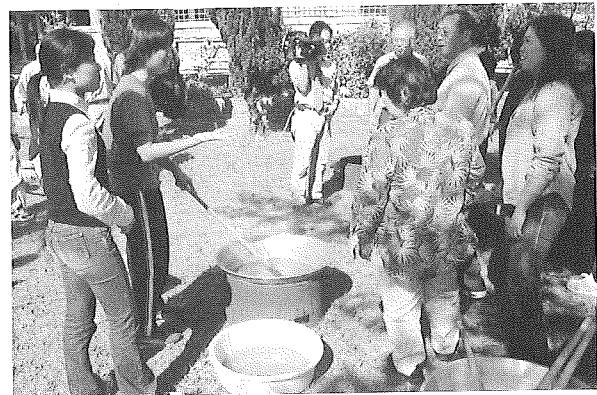
場 所：県立博物館

参 加 者：38名（教育関係者・一般対象）

内 容：当講座は、総合学習や地域の活動をサポートする講座として実施された。体験内容は、サトウキビしぼり機の操作、不純物のこしとり、庶汁の性質検査、石灰の分量調整、搅拌方法、加熱の調整や終了のタイミング、冷却方法等である。加熱温度や搅拌の具合、石灰の分量によっても黒糖の風味や旨味などに相違が出てくる。伝統的な製法による黒糖づくりには経験の積み重ねで身に付くノウハウが数多くある。原料となったサトウキビは、体験農場で育ってきた農林8号の株だしを使用した。当日は含密糖工場での黒糖づくりやサトウキビ栽培のビデオ学習もしながら、昼過ぎには黒糖が出来上がり、「さとうきびを考える日」となった。



汁を搾り出す操作も手際よく



黒糖談義に花咲く受講生

6. ボランティア活動

(担当:上地弘伸教育普及課長)

予算額:363,000円

沖縄県立博物館におけるボランティア活動は、平成5年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア活動」にもとづき進めてきた。平成16年は、5月に博物館ボランティア総会にて役員体制を強化し、また各月の定例のボランティア運営委員会で年間の事業内容を確認しながら事業を実施してきた。

博物館においては「博物館ボランティア養成講座」を6回実施し、講座を修了したものの中から活動を希望するものについてボランティアの登録を受け入れてきた。本年度は、男21名 女57名、計78名の登録があった。さらに登録をしたボランティアには「博物館のボランティアを考える」など計6回の「博物館ボランティア専門講座」を実施し、研修の機会を提供してきた。

今年度の活動の中で特徴的なことは、企画展「自然界のエイリアン」の活動支援に延べ144名の参加があったこと、また特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会」の支援活動に延べ115名の参加があった。

ボランティアの主な活動としては、新聞等の資料整理、博物館体験学習活動の支援、展示解説、民具体験学習の支援、学校団体見学時の解説補助、企画展・特別企画展における展示室対応などを実施してきた。

年間をとおしてのボランティアの活動には、延べ824名の参加者、養成講座には延べ122名、専門講座には264名の受講者があった。

ボランティアの養成講座及び専門講座は、下記のとおりであった。

<博物館ボランティア養成講座>受講者:延べ122名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	6月16日(水)	教育普及	上地 弘伸	博物館におけるボランティアの役割
2	6月30日(水)	博物館学	津波古 聰	博物館における活動ってどんなもの
3	7月7日(水)	教育普及	玉城 善哲	博物館におけるボランティア活動
4	7月14日(水)	自然	座霸 泰	自然史展示の構成とその特徴
5	7月21日(水)	考古	仲座 久宜	歴史展示の構成とその特徴
6	7月28日(水)	民俗	久場 政彦	民俗展示の構成とその特徴

<博物館ボランティア専門講座>受講者:延べ264名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	9月22日(水)	自然	嵩原 健二	私の薦めるスポットガイド
2	9月29日(水)	教育普及	玉城 善哲	体験学習 豆腐づくり(実習)
3	10月6日(水)	民俗	久場 政彦	私の薦めるスポットガイド
4	10月27日(水)	美術工芸	赤嶺 敏	私の薦めるスポットガイド
5	11月10日(水)	自然	田中 聰	自然界のエイリアン展解説
6	12月8日(水)	考古	當眞 翔一	南部地域のグスク巡り(野外)

7. 支援活動

団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となつてきている。

1、小中学校への取り組み

- ・小学校の児童に対しては、見る・触る・体験するなどの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ4年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた。
- ・小学校4年生の社会科の学習で博物館学習や民具体験学習が定着してきた。
- ・暮らしの道具を使うなかから学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- ・三転式キビ搾り器・豆腐づくり用石臼の借用を希望する団体が学校から地域まで広がりをもつようになってきた。
- ・中学校の生徒は総合的な学習の時間を活用し、博物館学習に取り組む学校が増えてきている。

2、高等学校への取り組み

- ・「総合的な学習の時間」の学習に向けての取り組みで沖縄県立首里高等学校1年生500名や那覇国際高等学校1年生411名、真和志高等学校2年生20名、美里高等学校1年生50名が博物館学習で見学したり、首里高等学校の染織科の生徒40名が美術工芸室での課題学習で来館した。
- ・県外高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネイトにより対応した。

3、企業等による博物館研修

- ・沖縄県自治研修所主催の県公務員の新採用職員研修で博物館を活用した郷土学習での沖縄の文化・自然・歴史などについての学習で195名が来館した。
- ・沖縄県のタクシー協会の乗務員研修で25名が来館し、解説勉強会を行った。

4、デイ・サービス事業や老人会・婦人会の活動の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館される団体も多くなった。
- ・東風平町老人会、西原町老人会や勝連町老人会など地域の団体見学も増えている。
- ・幼稚園児や保育園児などの見学も増えている。
- ・白梅同窓会120名が講堂で戦前の沖縄をとらえた映像のビデオ視聴を行った。

5、矯正施設の児童生徒の見学受け入れ

- ・矯正施設の生徒が博物館見学で来館した。
- ・県立森川養護学校高等部の生徒が課題学習で来館し、ボランティアが支援した。

VI. 博物館学芸員実習

(担当：津波古聰学芸課長)

本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度に沖縄国際大学で学芸員養成課程の講座が開設され、平成7年度からは琉球大学、平成8年度からは県立芸術大学でも同科目が開設されたことに伴い、それぞれの大学から実習生を受け入れてきた。また、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として、受講生の総数を勘案しながら受け入れている。

今まで各大学ごとに実習を実施してきたが、当館の施設の狭隘と事業などの関係から平成13年度からは、年2回とし、各大学ごとの枠をはずして行った。平成15年度は、沖縄国際大学2名、琉球大学8名、沖縄県立芸術大学1名の他に茨城大学1名、青山学院大学1名、東京学芸大学1名、京都橘女子大学1名の計16名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

1. 実習科目と指導学芸員

(1) 博物館の管理運営(関係法規、組織、予算、関係団体等)	友利副館長
(2) 博物館保存施設と保存環境	平安山明彦
(3) 学芸業務の考え方と実際	津波古学芸課長
(4) 博物館資料の受入、分類、原簿記載実習	赤嶺 敏
(5) 考古資料の取扱い実習	仲座久宜
(6) 歴史資料の取扱い実習	大城 航・稻福恭子
(7) 博物館の展示方法(自然)	田中 聰
(8) 自然史資料取扱い実習Ⅰ	嵩原建二
(9) 自然史資料取扱い実習Ⅱ	嵩原建二
(10) 自然史資料(化石、鉱物等)の取扱い実習	座霸 泰
(11) 美術工芸資料(染織・書跡)の取扱い実習Ⅱ	勝連涼子・平川信幸
(12) 美術工芸資料(漆器、陶器)の取扱い実習Ⅰ	赤嶺 敏
(13) 美術工芸資料(絵画)の取扱い実習	平川信幸・津波古学芸課長
(14) 民俗資料の取扱い実習	久場政彦
(15) 博物館とフィールドワーク	當眞館長
(16) 展示活動の実際と教育普及補助業務	江藤奈穂子・喜久川智子
(17) 教育普及の考え方と実際	上地普及課長・松川聖子
(18) 教育普及活動の実践Ⅰ	玉城善哲・松川聖子
(19) 教育普及活動の実践Ⅱ	伊波一男
(20) 博物館の展示方法について(人文)	仲座久宜
(21) 企画展示の実際にについて	津波古学芸課長
実習日誌のまとめ	△

2. 実習期間

第1回 平成16年5月17日（月）～5月28日（金）

第2回 平成16年11月1日（月）～11月12日（金）

3. 実習生

第1回 (3名)

No	氏名	校名・学部	学年
1	佐久川裕子	大東文化大学文学部	4年次
2	宜保 増貴	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
3	長濱 健起	沖縄国際大学総合文化学部	4年次

第2回 (16名)

No	氏名	校名・学部	学年
1	宮城 奈々	北九州市立大学文学部	4年次
2	吉牟田敦子	九州産業大学芸術学部	科目等履修生
3	大浜聖香子	熊本大学文学部	3年次
4	高木 希帆	筑波大学人類学部	3年次
5	金城 有吾	茨城大学理学部	4年次
6	東恩納英子	東京工芸大学芸術学部	4年次
7	當間あづさ	昭和音楽大学音楽部	4年次
8	新垣 浩子	沖縄県立芸術大学美術工芸学部	4年次
9	上原 あい	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
10	上原さやか	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
11	登 真知子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
12	宮城 明江	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
13	砂川 和美	琉球大学法文学部	4年次
14	安村 孝	琉球大学理学部	4年次
15	田平 強	琉球大学理学部	4年次
16	青木 美鈴	琉球大学理学部	4年次

VII. 資料の収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

平成17年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	589	25657	8	1	26,255	50,401
	動物	1109	17953	511		19,573	
	植物	15	4558			4,573	
美術工芸	絵画	79	541	2	4	626	9,781
	書跡	180	423	49	6	658	
	彫刻	5	115	136	7	263	
	陶磁器	431	3300	465	538	4,734	
	漆器	231	217	195	19	662	
	染織	1093	1667	51	27	2,838	
歴史資料		2719	7307	334	126	10,486	10,486
考古資料		32	3548	2820		6,400	6,400
民俗資料		552	3947	1072	137	5,708	5,708
総計		7035	69233	5643	865	82,776	82,776

2. 平成16年度新収蔵資料高

平成16年4月1日～平成17年3月31日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		1			1	196
	動物	1	21	15		37	
	植物		158			158	
美術工芸	絵画					0	70
	書跡		15			15	
	彫刻		1			1	
	陶磁器		16			16	
	漆器		1			1	
	染織	3	34			37	
歴史資料			396			396	396
考古資料			1			1	1
民俗資料			40			40	40
総計		4	684	15	0	703	703

3. 平成16年度新収蔵資料目録

【寄贈の部】

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

分類	品 名	数量	寄 贈 者	
自然史	地質 魚化石	1	高良真喜	那覇市
	動物 グッピー(封入標本) 他	2	大城 勝	浦添市
	動物 メダカ(封入標本)	1	総合教育センター	沖縄市
	動物 ネコ(剥製)	1	沖縄県動物愛護センター	大里村
	動物 クマネズミ(剥製)	1	村山 望	那覇市
	動物 カイウサギ(剥製)	1	沖縄子ども未来ゾーン	沖縄市
	動物 インドクジャク雌(剥製)	1	株式会社はいむるぶし	竹富町
	動物 アミハラ(剥製) 他	2	ながみねどうぶつクリニック	具志川市
	動物 タイワンハブ(剥製) 他	2	県衛生環境研究所ハブ研究室	大里村
	動物 マダラロリカリア(剥製)	1	国営ちゅら海水族館	本部町
	動物 ホントウアカヒゲ(オス) 他	4	環境省やんばる野生生物保護センター	国頭村
	動物 ヤエヤマオオコウモリ	1	下地由子	平良市
	動物 ミヤコヒキガエル雄(剥製) 他	2	真栄平康広	平良市
	動物 コイ(剥製)	1	東洋近代美術研究所	千葉県
	動物 オオクチバス(剥製)	1	滋賀県立琵琶湖博物館	滋賀県
美術工芸	書跡 宜湾朝保和歌「幸逢太平代」 他	15	西 美知子	福岡市
	漆器 魚文螺鈿鎌倉彫円卓	1	久保田	那覇市
	染織 西陣織 千色千羽鶴(袋帯)	1	屋比久芳子	読谷村
	染織 紅型(衣裳)	1	前田伊都子	南風原町
	染織 絹着物(衣裳)	1	林 三子	兵庫県
	染織 灰色地芭蕉布羽織 他	3	小松エイ子	福岡県
	染織 久米島紬子供着物 他	17	新垣亜樹子	那覇市
	染織 裕ウツチャキー 他	11	玉城光子	那覇市
	陶磁器 清水焼水指及び野点茶道具	1	山城和子	那覇市
	陶磁器 緑釉渦巻文小壺 他	3	当間 巧	石川市
	陶磁器 鮎釉四耳油壺 他	12	宮里栄徳	具志川市
	考古 貝製品一式	1		
歴史	沖縄県沖縄看護学校「綾羽寮」表札	1	沖縄看護学校関係者	
	仲座久雄使用の品(バッグ、カメラ) 他	192	仲座 巖	那覇市
	通知表	1	眞喜屋實達	那覇市
	幟(のぼり)	1	當間嗣徳(代理人:當間嗣俊)	与那原町
	辞令書類 他	148	玉那霸勝一	西原町
	琉球絵はがき	6	原田耕治	愛知県
	沖縄館外観模型	1	宮城春子	那覇市
	『琉球大観 南島の自然と人』	1	石野芳弘	神奈川県
	『鳴津琉球軍精記』巻二～六 他	6	岡本恵昭	平良市
	世界のウチナーンチュ大会関連本、冊子 他	31		
	陳大徑書軸物「忍」 他	2	末吉秀吉(代理人:末吉文子)	浦添市
	琉球切手(琉球政府立博物館新館落成記念)他	4	國頭正伸	知念村
	写真集(民俗資料含む) 他	5	奥村義之	大分県
	『琉球の民謡』(金井喜久子著)	1	玉那霸勝一	西原町
民俗	古マンガン掛庇付厨子甕 他	3	神谷堪正	那覇市
	スルンヌ(棕櫚蓑)一式	1	具志堅宗佑	那覇市
	電動ミシン(ジヤノメスピーエース) 他	2	勝連光子	勝連町
	ガガイ(横挽き大鋸)	1	宮城美代子	名護市
	上焼本御殿型厨子甕	1	宮里勝美	那覇市
	おもがい	1	石澤正夫	那覇市
	ガンシナ	3	山城信子	粟国村
	アイヅツ(加工用棍棒)	2	浦崎キク	伊良部町
	荒焼御殿型厨子瓶 他	8	祖慶文子	那覇市
	香炉	1	仲宗根久子	糸満市
	位牌	1	吉里和雄	東風平町
	クムジチイシ(麦搗り石)	1	末吉幸吉	粟国村
	三線箱 他	8	宮城春子	那覇市
	古たんす(箪笥)	1	名城トヨ	与那城町
	足踏みミシン(CHIYODA) 他	3	與儀喜省	那覇市

【購入の部】

分類	品 名	数量	備考
美工	染織 納殿より知念筑登之親雲上宛の発注書	1	
	染織 澤祇家旧蔵の納殿発注仕分帳	1	
	染織 大台所より納殿宛の染紙発注書	1	
自然史	動物 キジ（剥製）	1	
	動物 グリーンアノール（雌雄複製一式）	1	
	動物 オガサワラヤモリ（複製一式）	1	
	動物 キノボリヤモリ（複製一式）	1	
	動物 シロアゴガエル（雌雄・卵塊複製一式）	1	
	動物 ヌマガエル（複製）	1	
	動物 ヒメアマガエル（複製）	1	
	動物 オキナワアオガエル（雌雄・卵塊複製一式）	1	
	動物 サキシマヌマガエル（複製）	1	
	動物 ニューギニアヤリガタリクウズムシ（複製）	1	
	動物 スッポン（剥製）	1	
	動物 ウシガエル（剥製）	1	
	動物 スクミリンゴガイ（成体・卵塊複製一式）	1	
	動物 アメリカザリガニ（剥製）	1	
	動物 カワスズメ（雌雄・産卵床複製一式）	1	
	動物 インドクジャク雄（剥製）	1	

4. 所蔵の指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成17年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館	沖縄県
	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	沖縄県立博物館	沖縄県
	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧円覚寺樓鐘）	〃	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭琉球国中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	沖縄県立博物館	沖縄県

県指定文化財（有形文化財）

平成17年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1軸1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃	〃
絵画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57. 3. 4	〃	〃
	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃	〃
	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃	〃
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
	色象嵌栗絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧靈応寺鐘）	〃	昭60. 6. 18	〃	〃
	梵鐘（旧普門禪寺鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧天竜精舍鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃	〃
	梵鐘（旧大安禪寺鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃	〃
	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	〃	〃	〃
	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃	〃
	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	〃	〃
典籍	評定所作格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	評定所作格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	沖縄県立博物館	沖縄県
	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元. 9. 29	〃	〃
	扁額「凌雲」 林麟焰書	1面	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	1口	昭60. 6. 18	〃	〃
	安国山樹花木記碑	1基	平元. 9. 29	〃	〃

5. 博物館展示資料整備事業

(担当:久場、座霸、嵩原)

I. 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として長い歴史を有し、現在8万件余の資料が収蔵されている。この約60年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料においては一部未整理のものが残されている。このことから当事業は、平成19年度に開館する新館への移転のために、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動等に支障がないような移転準備作業の一環として、実施されているものである。

これまでに行われた事業では、収蔵されている厨子甕の実測整理や、収蔵古写真の複製と分類・整理等、また、委託業務として実施した、各分野資料の分類・整理作業にかなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理・保管だけでなく、各種情報の公開を推進していくことが不可欠となってくる。このことから、利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能となるように、平成6年度に収蔵資料管理システムを構築し、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）を推進し、収蔵資料の基礎情報となる文字及び画像データの充実をはかるため、データ入力等の作業を継続的に行ってきました。これらの蓄積された情報を新館で使用される新しいシステムに移行させていくために、整理すると共に、内容の検討を行っている。

II. 事業の内容

1. 収蔵資料整理作業

- ①. 収蔵資料台帳の整理
- ②. 未登録資料の分類・整理登録
- ③. 各分野収蔵庫の整備

2. 資料情報帳電子化（コンピュータ化）作業

- ①. データベースシステムの研究
- ②. システムのハード機器及びソフトウェアの整備
- ③. 収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備
- ④. 新データベースシステムへの移行に伴う情報の整理

3. 写真撮影及び写真整理作業

- ①. 収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムおよびデータの整理・保管
- ②. 収蔵古写真の複製・整理作業
- ③. 歴史資料のマイクロ化
- ④. 写真パネル等の作成・整理

III. 平成16年度事業実績

1. 収蔵資料整理作業

- ①. 美術工芸資料の整理作業…未登録資料の分類・整理登録
- ②. 厨子甕収蔵庫補強作業…厨子甕資料増加のため収蔵庫の補強と収納量を拡大

2. 資料情報帳電子化作業

- ①. 収蔵資料データ入力・保管のための機器整備
- ②. 収蔵資料データのバックアップメディアの作成

6. 博物館新館移転資料整理事業（平成16年度沖縄県緊急地域雇用創出特別事業） (担当: 仲座、嵩原、久場)

1. 事業概要

県立博物館では平成15年度に引き続き、新館移転のための収蔵品台帳と収蔵資料の照合作業を実施し今年度で事業を終えた。今年度も指名競争入札により落札した業者とパソコン一式及び労務管理に関する委託契約を結び、各分野においてのべ20人の作業員を雇用して整理作業を進めた。委託業者及び整理作業員の内訳は以下のとおりである。

○委託業者: 株式会社 沖縄エジソン (代表者名: 比嘉和雄)

○整理作業員一覧 (のべ20人: 前期10人+後期10人)

分 野	整理作業員氏名	
	前期(3期)	後期(4期)
化 石	我那覇悠子 仲宗根三枝子	金城成子 金城敬子
自 然	川島一誠 満村法子	金城雅代 下地幸夫
考 古	永吉弘子 友利映子	岡村綾子
歴 史	比嘉陽子	前田梨沙 比嘉孝子
民 俗	村山由生 呉屋和江	兼島吟枝 実藤ももこ
美 工	高橋佳予子	本田伸明

2. 作業内容・成果

整理作業は、既存の収蔵台帳をもとに原資料を照合し、現状の確認、法量計測、写真撮影等を行い、収蔵場所等の情報を含めたデータを入力したデータベースを構築する。今年度作業を終えた状況は下表のとおりであるが、未整理分は引き続き次年度に整理作業を行う予定である。なお、今年度は全分野の整理作業員により、1週間の期間を教育普及関係資料の整理に割り当て、成果を上げることができた。

○平成16年度整理作業実績(件数)

平成17年3月現在

分 野	作業資料数 A+D+E± α	台帳数(A) B+C	台帳照合(B) A-C	次期整理(C) A-B	寄託資料 (D)	未登録・ 学芸資料(E)	備 考
化 石	5,943	2,930	2,930	—	—	3,013	
自 然	21,298	24,338	11,938	12,400	—	—	
考 古	177	140	140	—	—	37	JHK資料
歴 史	4,030	3,270	2,615	655	—	—	
民 俗	818	797	674	123	0	13	
美 工	3,931	3,925	3,387	538	0	6	
普 及	1,211	0	0	—	—	—	新規作成
H16計	37,408	35,400	21,684	13,716	0	3,069	
H15計	15,068	12,350	11,576	993	379	1,261	
総合計	52,476	47,750	33,260	14,709	379	4,330	

7. 修理事業

(担当：赤嶺 敏)

目的：博物館資料は、貴重な歴史遺産であり、その多くは二度と同等の資料を収集する事が出来ないものが多い。また、制作されてから長い年月を経ているため劣化が進んでいる資料や、材質が弱く取扱に細心の注意を払わなければ破損する可能性が高いものが含まれている。これらの資料は、展示資料として不可欠であるが、長期的な展示には耐えられない状況のものがある。

資料修理は、これらの資料を改善し、資料の健全化を図り、将来的な展示の質的な向上を図ることを目的とする。

業務内容：

・古文書の修理

- 1) 資料名：球陽・古文書
- 2) 修理内容：球陽（目録 卷14～20、本文 卷12～20）1冊の離散した用紙を冊子に綴じる。
- 3) 修理者：当山堂（代表：当間 博、石川市東山2-3-7）
- 4) 予算執行額：268,537円

過去に裏打の修理がなされているが、表・裏表紙が無く、綴じられていないため、散逸の恐れがあったので修理を行った。

用紙の分量が多い為、1冊に綴じる修理は不可能であった。そこで、表紙、裏表紙を新調し6分冊（4ツ目和綴じ）にして、冊子を綴じた。

分冊は以下のとおり行った。

イ、目録卷14～卷20

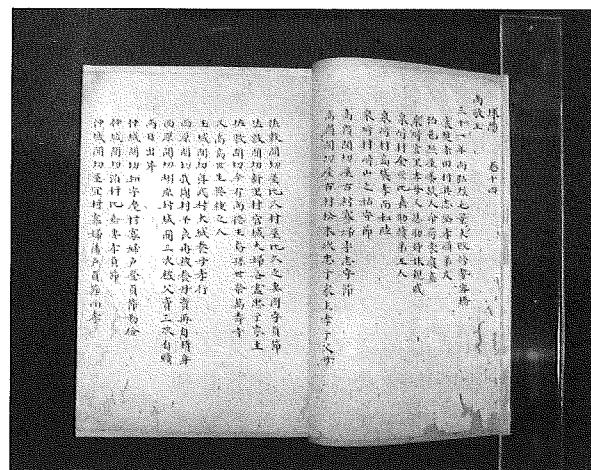
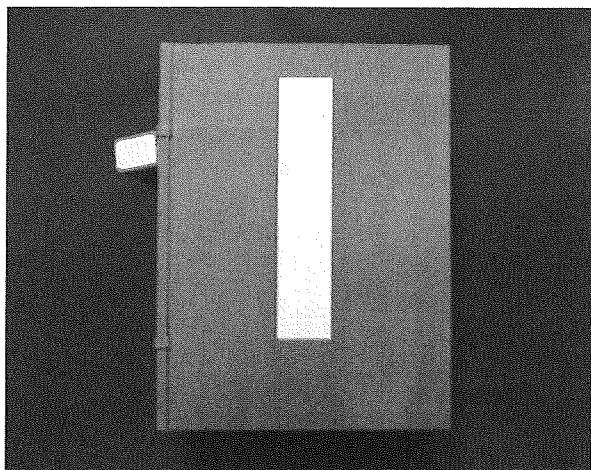
ロ、卷12

ハ、卷13

二、卷14～卷16

ホ、卷17

ヘ、卷18～卷20



8. 化石資料受入事業

(担当: 座霸 泰)

1. 事業の目的と経過

長谷川善和氏より寄贈を受けた沖縄県産化石資料の整理作業と、収蔵している岩石・化石資料の整理作業、また、県内各地から資料を収集し、将来の新館展示に向けて収蔵品の充実を図る事を目的として1995年度より資料整理事業が行われてきた。

長谷川氏寄贈の化石資料が30,000点を超える膨大な数であり、20,000万点余の整理は終えているものの、その後も追加資料が相次いだため未だ整理作業は継続中である。

長谷川コレクションのうち整理作業が終了したのは、宮古島ピンザアブ洞穴産のノロジカ化石、ハタネズミ化石、港川フィッシャー産トリ類化石であり、当館で所蔵しており現在作業を継続しているのは、伊江島ゴヘズ洞穴産と久米島下地原洞穴産のシカ・キヨン類化石などである。

2. これまでの事業の内容及び実績

①受入資料の整理作業

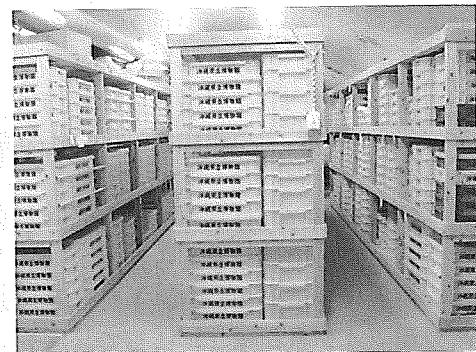
収蔵資料の台帳整理

未登録資料の分類・整理作業

化石資料の分類、部位同定・修復、登録作業

岩石・鉱物資料の同定、分類

登録後の資料の計測とナンバリング



長谷川コレクション収蔵状況

②受入資料

長谷川コレクション……………シカ類化石を中心とする約30,000点

ミヤコノロジカ復元骨格のレプリカ作成

下地原洞穴出土乳児人骨のレプリカ作成

港川フィッシャー産トリ化石……………約1,000点

宮古島産ほ乳類化石……………約1,000点

南北大東島産アホウドリ化石……………約200点

知念村ジープ洞シカ化石……………約10,000点

下地原洞穴産シカ類化石……………約1,000点

3. 平成16年度事業実績

・受入資料の整理作業

長谷川コレクション整理作業

伊江島ゴヘズ洞穴産のリュウキュウジカ化石…整理終了

リュウキュウムカシキヨン化石…整理終了

港川フィッシャー産トリ化石整理

久米島下地原洞シカ化石整理

知念村ジープ洞シカ化石整理

宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石受入準備



ミヤコノロジカ角

9. 資料貸出

展覧会名：常設展示

主 催：沖縄県立埋蔵文化財センター

会 場：同上

貸出期間：平成16年4月1日～平成17年3月14日まで

貸出資料：化石資料／伊江島ゴヘズ洞穴産リュウキュウジカ化石 12点

展覧会名：常設展示（総合展示 日本文化のあけぼの）

主 催：国立歴史民俗博物館

会 場：同上

貸出期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日まで

貸出資料：考古資料／嘉手納貝塚出土荻堂式土器

展覧会名：常設展示

主 催：沖縄県平和祈念資料館

会 場：同上

貸出期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日まで

貸出資料：民俗、歴史資料／ジュラルミン製品など 38件

事 業 名：「芭蕉布の系譜—琉球王国時代から喜如嘉の芭蕉布・平良敏子へ」

主 催：(財)海洋博覧会記念公園管理財団

会 場：首里城公園南殿（特別展示室）

貸出期間：平成16年9月1日～10月13日まで

貸出資料：美工資料／芭蕉布絆着物 他8点

事 業 名：特別企画展「黒潮と南の島の生きもの」

主 催：宮崎県総合博物館

会 場：同上 特別展示室

貸出期間：平成16年9月22日～12月3日まで

貸出資料：自然史資料／イリオモテヤマネコ剥製、マンガース剥製 他7点

目 的：沖縄市史第4巻考古編編集

団 体 名：沖縄市役所

貸出期間：平成16年9月13日～11月12日まで

貸出資料：考古資料／天野鉄夫採集知花焼陶片 他46件

展覧会名：「沖縄・知花花織展」

主 催：思文閣美術館

会 場：同上

貸出期間：平成16年10月9日～11月7日まで

貸出資料：美工資料／読谷山花織胴衣他 7点

事 業 名：紅型衣装と型紙展

主 催：恩納村博物館

会 場：同上 企画展示室

貸出期間：平成16年10月13日～11月22日まで

貸出資料：美工資料／紅型衣装7点、型紙21点 他6件

事業名：近代日本の計量関係実物資料の成立過程の研究

主催：国立科学博物館 新宿分館

保管場所：同上

貸出期間：平成17年2月25日～4月22日まで

貸出資料：民俗資料／唐尺、升（ツガ）他4点

事業名：企画展「東アジア中世海道－海商・港・沈没船－」

主催：国立歴史民俗博物館

保管場所：国立歴史民俗博物館・大阪歴史博物館・山口県立萩美術館・浦上記念館

貸出期間：平成17年3月1日～12月9日まで

貸出資料：民俗資料／石彫獅子、漆喰獅子他2点

事業名：博物館リニューアル

主催：南部ワールド株式会社

保管場所：おきなわワールド 王国歴史博物館内

貸出期間：平成17年3月8日～平成18年2月28日まで

貸出資料：化石資料／化石ジカの骨格組立標本

展覧会名：「海のシルクロードから琉球王国へ 未来への道標 琉球－中国・福建交流500年展」

主催：浦添市美術館

保管場所：同上 企画展示室

貸出期間：平成17年3月11日～5月11日まで

貸出資料：美工資料、歴史資料／冊封使行列図（レプリカ）、渡闊航路図

10. 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約8万2千点余りある。それらの資料は、害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年1回行っている。

平成16年度は、9月7日～11日までの期間を閉館して実施した。履行場所は、地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」をヨウ化メチルによって燻蒸し、その他の事務所・講堂等はピレスロイド系殺虫剤フェノトリンによって害虫駆除を行った。

燻蒸実施結果報告

場所	内容量 (m ³)	単位薬量 (g/m ³)	投薬量 (Kg)	燻蒸種類	投入時間 (h)	残留ガス濃度 (ppm)	供試虫
1F 収蔵庫	323	40.0	12.9	密閉	38	0	全死
2F 漆器収蔵庫	540	40.0	21.6	×	23	0	×
民俗展示室	1,177	40.0	47.0	×	23	0	×
美術工芸展示室	764	40.0	30.5	×	23	0	×
自然展示室	613	40.0	24.5	×	30	0	×
歴史展示室	1,622	40.0	64.8	×	24	0	×
地下収蔵庫	821	40.0	32.8	×	20	0	×
扁額「徳高」	5	40.0	0.2	包込み	23	0	×
首里城正殿模型	75	40.0	3.0	×	22	0	×

VIII. 新館展示調査等

県立博物館新館・美術館の建設は、平成17年11月9日に建設予定地・那覇市おもろまちにて起工式が行われ、平成18年度中には建物の姿が現れるであろう。

躯体工事の開始とともに展示計画も監修員会と調整しながら詳細な部分の検討がなされている。そのため、原資料及び環境等の調査も具体的となり全体の姿が明確になっていく。今後も展示内容の詳細な検討と同時に展示物の製作が実施されていく予定である。そのため開館の平成19年度まで現地調査と展示の検討は繰り返し行われることとなる。

平成16年度は、80回余の会議が開かれた。各部門の監修委員との会議（自然史5回、考古3回、歴史5回、美術工芸3回、民俗2回、教育普及2回）を20回ほど、建設室と博物館の調整会議（自然史9回、考古12回、歴史14回、美術工芸2回、民俗7回、データベース関係7回、全体10回）を61回行い、総合展示室及び部門展示室の内容について協議された。その他県文化課、建設室、博物館の三者による連絡会議を6回もち、連携を密にしながら新館への移転及び新館の展示及び開館後の活用等を協議した。その他湧田窯移転の不可について、奈良文化財研究所の肥塚氏を招き助言を得た。さらに浦添ようどれの石棺の調査、歴史部門のヒヤリング等も実施した。

なお新館の展示に関わる調査等は下記のとおりである。

○平成16年度新館資料調査等（平成16年4月～平成17年3月）

	出張者	目的	期間	場所
1	座覇 泰	化石・岩石資料等調査収集	平成16年10月30日～31日	久米島
2	久場政彦	民家等調査	平成16年10月31日～11月1日	久米島
3	久場政彦	民俗祭祀調査	平成16年12月8日～12月12日	石垣、与那国
4	稻福恭子	歴史資料等の調査	平成16年12月8日～12月10日	石垣、竹富
5	久場政彦	民具等資料調査	平成16年12月18日	佐敷町
6	稻福恭子	総合展示物、屏風・文書等調査	平成17年1月18日～20日	京都、滋賀、奈良
7	仲座久宜	考古資料等調査	平成17年1月27日～30日	鹿児島
8	座覇 泰	化石・岩石資料等調査収集	平成17年1月28日～30日	石垣
9	田中 聰	カエル等の映像製作の現地調査	平成17年1月29日	国頭村
10	田中 聰	カエル等の映像製作の現地調査	平成17年2月7日	国頭村
11	嵩原健二	ヤンバルのジオラマ製作樹木選定調査	平成17年2月16日	国頭村
12	赤嶺 敏	総合展示物、屏風等の撮影立ち合い	平成17年2月17日～20日	滋賀、奈良
13	久場政彦	民俗祭祀等調査	平成17年2月21日～23日	宮古、伊良部
14	嵩原健二	ジオラマ製作樹木選定調査	平成17年2月23日～25日	宮古
15	田中 聰	カエル等の映像製作の現地調査	平成17年3月2日	国頭村
16	赤嶺 敏	総合展示物、屏風等の色校正立ち合い	平成17年3月10日～12日	滋賀
17	久場政彦	琉球船舶関係調査	平成17年3月11日	神戸、姫路
18	平川信幸	総合展示物、屏風等の色校正立ち合い	平成17年3月28日～30日	東京、滋賀

IX. 刊行物

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	沖縄県立博物年報第37号	定期	1,000	A4(92)	前年度の博物館活動の状況や概要。
2	平成15年度新収蔵品展	定期	1,000	A4(19)	前年度受け入れた資料を紹介する展示会図録。
3	企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」	不定期	5,000	A4(22)	企画展「自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～」の図録で、沖縄における外来種による様々な問題を概説したもの。無料配布を行った。
4	平成16年度博物館体験学習教室	定期	1,000	A4(49)	平成16年度教育普及事業として実施した児童生徒を対象とした体験教室の記録。
5	平成16年度ボランティア活動	定期	1,000	A4(35)	平成16年度ボランティアの活動内容報告。
6	博物館だよりNo51	定期	2,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌。
7	年間行事案内リーフレット	定期	8,000	変形A4	平成17年度の年間行事案内。
8	年間ポスター	定期	1,000	B2変形	平成17年度の年間行事案内。
9	日本文リーフレット	定期	30,000	変形A4	当館の展示案内。
10	英文リーフレット	定期	1,000	変形A4	当館の展示案内。
11	第29回移動博物館リーフレット	定期	1,000	A4(12)	北大東村で開催された移動博物館の展示資料紹介。
12	北大東の自然と文化ガイドブック	不定期	300	A5(64)	北大東村で開催された移動博物館に関連する刊行物で、北大東の自然や文化を紹介したガイドブック。北大東村歴史民俗資料館の教育普及書。

X. その他の活動

1. 沖縄県博物館協会

平成16年度沖縄県博物館協会の理事会・総会・春期研修会は、6月3日(木)に、浦添市美術館の担当で浦添市役所講堂にて開催された。

理事会は同室にて13:00より執り行われ、15年度事業及び決算報告、16年度事業計画案及び予算案についての審議、沖博協顕彰者の確認、そして来年度以降の会長館の交代について等の総会資料の確認を行った。理事会終了後、会場を作成し81名の参加のもと平成16年度総会・春期研修会が開催された。総会においては事務局より提案した議題が、いくつかの質問の後承認されて終了した。会長館の交代については、平成16年3月9日(火)に県立博物館にて開催された平成15年度第3回目理事会において了承された以下の提案が承認された。

- ①17年度から3期の会長・事務局を17・18年度南風原町立南風原文化センター、18・19年度読谷村立歴史民俗資料館、20・21年度県立博物館として話を進める。
- ②来年度より幹事会は新たなメンバーとして沖縄県平和祈念資料館、沖縄市立郷土博物館、おきなわワールドを加えて強化していく。

休憩後、県立博物館新館建設について、県文化施設建設室の園原謙氏によりその概要が報告され、終了後引き続き研修会が行われた。

研修は浦添市教育委員会文化課長の下地安広氏により「浦添の文化財について」と題してうらそえようどれの発掘作業を中心とした講演が行われた。

講演会終了後、隣室に設定された会場で情報交換会が行われ、各館園の紹介を行い、時間までお互いの情報を交換した。

翌日4日(金)現地研修会が行われた。9:30浦添市美術館に集合し同館内で開催されている、儀間比呂志の木版画「沖縄の戦争と平和」展を見学したあと国立劇場おきなわへ向かった。会議室にて、設立の経緯、概要の説明を受けた後、館内の施設・設備を案内に従って見学させていただいた。

秋期の理事会と研修会は10月21日(木)～22日(金)の2日間、恩納村博物館の担当で、同博物館にて行われた。

理事会は、研修室において14:00より執り行われ、来年度の総会・研修会、17・18年度の新役員、沖博協顕彰者の審議、そして17年度以降の会長・事務局担当館の確認、新入会および退会した館の報告が行われた。

理事会終了後、67名の参加の下で研修会が始まり、恩納村博物館学芸員の比嘉めぐみ氏により「恩納村博物館常設展示を振り返って」と題して、開館時の展示室作成についての講演が行われた。休憩のあと引き続き、恩納村博物館長知念勇氏により「仲泊遺跡の保存と歴史の道」と題して「国頭方西海道」についての講演が行われた。

研修会終了後、恩納村博物館の会議室にて情報交換会が行われ、各館の情報交換が活発になされた。

翌日22日(金)は9:00より現地研修会が行われ、首里から浦添を経て、読谷山、恩納、名護、今帰仁へと北上する沖縄本島西側を通る宿道である「国頭方西海道」を、真栄田一里塚から仲泊遺跡まで館長知念勇氏の案内のもと皆で歩いて回った。

例年、有意義な研修会等を年間2回開催しているが、研修会の前には幹事会を招集し、理事会への提案事項の検討や研修会の持ち方、研修内容などについての話し合いを行っている。今年度は2回の幹事会を県立博物館と南風原文化センターで開催した。

平成17年度の総会及び春期研修会は6月2日(木)～3日(金)に南風原町立南風原文化センター、秋期研修会は9月8日(木)～9日(金)に平良市総合博物館の担当で開催されることになっている。

2. 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として昭和55年1月に発足してから25年目を迎えた。本年度の会員の内訳は、普通会員422名、準会員4名、賛助会員8社、家族会員79家族（163名）となっており、近年は家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また、友の会の活動も年間を通しての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。

平成16年度の活動内容と事業内容は次のとおりであった。

1. 事 業

- (1) 離島研修：平成16年4月24日（土）～25日（日）
「久米島ボタル観察会」及び「久米島の史跡めぐり」を久米島ホタル館館長佐藤文保氏と久米島文化センター学芸員山城勇人氏の解説で実施した。（参加者：17名）
- (2) 展示室解説会：平成16年7月10日（土）
企画展「新収蔵品展 解説会」を当館学芸員久場政彦氏の解説で実施した。（参加者：13名）
- (3) 県外研修：平成16年7月27日（火）～29日（木）
「屋久島の研修」を当館学芸員嵩原建二氏の解説で実施した。（参加者：38名）
- (4) 自然観察会：平成16年8月7日（土）
「地層と化石観察会」を大城逸朗氏の解説で実施した。（参加者：22名）
- (5) 海外研修：平成16年10月2日（土）～8日（金）
「ブルネイ王国とボルネオ自然紀行」研修を当館学芸員田中聰氏の解説で実施した。
(参加者：15名)
- (6) グスクめぐり：平成16年10月17日（日）
「浦添グスク・ようどれ」の見学会を会員の仲間孝蔵氏の解説で実施した。（参加者：25名）
- (7) 体験教室：平成16年10月24日（日）
「布ぞうり作り」を上運天成研氏を講師に迎えて布ぞうり作りを実施した。（参加者：13名）
- (8) グスクめぐり：平成16年11月14日（日）
「勝連半島の遺跡めぐり」を講師に嵩元政秀氏を迎えて実施した。（参加者：42名）
- (9) 展示室解説会：平成16年11月17日（水）
企画展「自然界のエイリアン」展の展示解説を当館学芸員田中聰氏の解説で実施した。
(参加者：10名)
- (10) 文化キャラバン隊：平成16年11月18日（木）～20日（土）
北大東島で開催された移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。（参加者：5名）
- (11) 史跡めぐり：平成17年2月5日（土）
「壺屋めぐり」をテーマに壺屋焼物博物館の展示解説を内間靖学芸員に、「窯場めぐり」をボランティアの方の案内で実施した。（参加者：22名）

2、会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

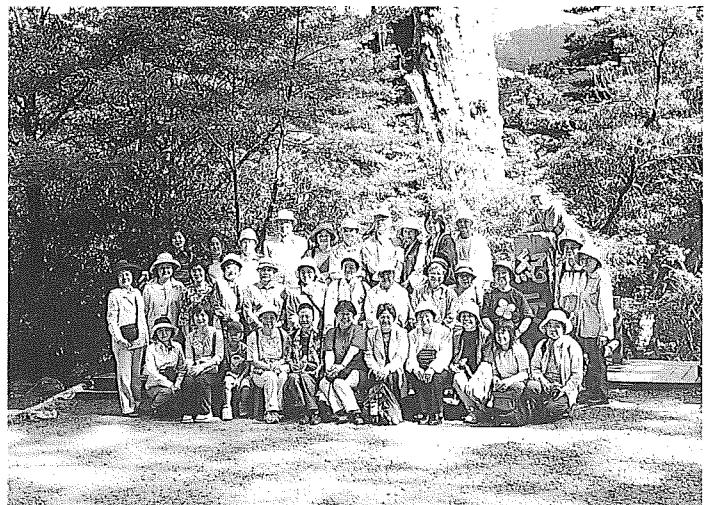
3、会誌（博友）18号・会報（赤い瓦）25号の発行

4、ミュージアムショップの経営

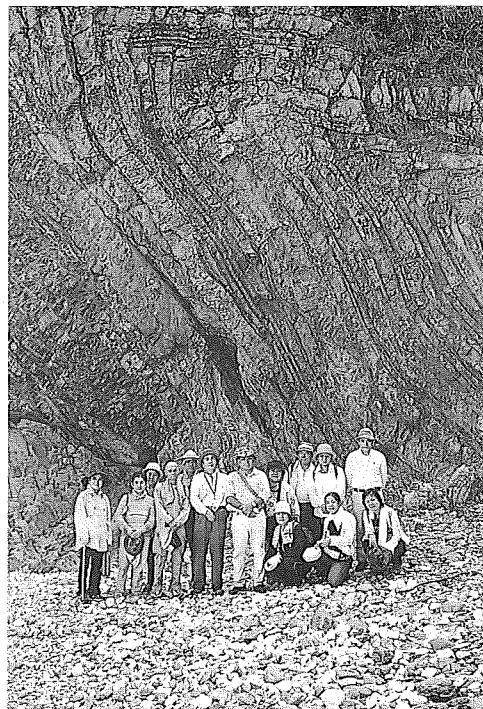
出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・切手・フィルム・飲み物等の販売サービス

5、その他

- サークル活動： グスクサークル、民俗サークル、家譜サークル
- 総会及び懇親会（平成16年5月24日） 参加者：60人
- 新年会 （平成17年1月17日） 参加者：64人



屋久島の研修



地層と化石観察会

X I. 関係法規抄録

○博物館法 昭和26年12月1日 法律第285号

[最終改正] 平成13年7月11日 法律第105号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

(1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

(2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

(3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に關し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

(4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

(5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

(6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

(7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

(8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

(9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに當つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該申請書に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で登録申請書に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項に重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知ったときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたと

き、又は虚偽の申請に基いて登録した事實を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむ得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設 置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所 管)

第19条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 削除

(入館料)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事實の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

(1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

(2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

(3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

(4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関する、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和27年3月20日 政令第47号

[最終改正] 昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

1 日本赤十字社

2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

1 施設費 施設の建築に要する工事費、附帯工事費及び事務費

2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄） 昭和47年5月15日 条例第24号

〔最終改正〕平成6年12月27日 条例第42号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（抄） 昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号

〔最終改正〕平成10年3月31日 教育委員会規則第5号

（趣 旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課・学芸課・教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関する事。
- (2) 公印の管守に関する事。
- (3) 施設設備の管理に関する事。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 博物館協議会に関する事。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関する事。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関する事。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関する事。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関する事。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号

[最終改正] 平成12年3月30日 教育委員会規則第17号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日にに関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慽靈の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日のおいて最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館料の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

(2) 伝染病患者及びめいていき者と認められる者

(3) その他館長が適当でないと認められる者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い又は公務の選挙に関し特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(現状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10月までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則（平成12年3月30日教育委員会規則第17号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書		平成 年 月 日	沖縄県立博物館長 殿	申込者 住所 氏名	記
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。					
1 種別	2 作者名	3 作品名	4 製作年月日	5 附属品	6 資料の所在地
7 時価見積額	8 寄贈の理由				
受諾書					
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。					
平成 年 月 日	沖縄県立博物館長	印			

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書		平成 年 月 日	沖縄県立博物館長 殿	申請者 住所 氏名	記
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申込みます。					
1 種別	2 作者名	3 作品名	4 製作年月日	5 附属品	6 資料の所在地
7 寄託期間	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年
平成 年 月 日	沖縄県立博物館長	印			

第3号様式（第11条関係）

第4号様式（第16条の2関係）

博物館資料受託承認書	
平成 年 月 日	殿
沖縄県立博物館長	印
平成 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。	
記	
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7 備考	

入館料免除申請書	
平成 年 月 日	日
沖縄県立博物館長 殿	
申請者住所	
氏名	印
電話	
下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2 第2項の規定に基づき申請します。	
記	
1 入館者 団体名	
2 入館者数 引率者名	
3 入館日時 人 年 月 日 (曜日) 時 ~ 時	
4 申請理由	
年 月 日付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。	
年 月 日	沖縄県立博物館長 印

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和47年10月2日 教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に關し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を總理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関して必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例 昭和47年5月15日 条例第37号

[最終改正] 平成9年7月16日 条例第23号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるとときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成9年7月16日条例第23号)

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

別表第1 [博物館の入館料] (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体 (20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領 平成14年3月14日教育長決裁

(目 的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用
- (2) 同資料の撮影
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用
- (4) 撮影等による複製品の製作
- (5) 原資料等の閲覧
- (6) 教育普及資料の借用

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていなければならぬ場合
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容
- (2) 事業の主体者
- (3) 事業計画
- (4) その他必要な事項

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	共通条件	資料利用の許可条件	個別条件
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。</p> <p>②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。</p> <p>③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。</p> <p>④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。</p> <p>⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p>	<p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>②資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。</p> <p>④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>④郵送費は申請者が負担すること。</p> <p>⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。</p> <p>④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>	<p>①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。</p> <p>②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。</p> <p>③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p> <p>①貸与期間は1週間以内とする。</p> <p>②資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。</p> <p>④万一日の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>
複製品の製作 (第3号様式)			
原資料等の閲覧 (第4号様式)			
教育普及資料の借用 (第5号様式)			

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名

)

住所(〒)

TEL: fax:

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名		
借用希望期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(原資料等の借用)博物 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名		
借用期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： ㊞

団体名：

(担当者氏名)

住所(〒)

TEL: fax:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)		1 写真原板使用 2 撮 影 3 揭 載			
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	事 項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テ レ ビ				
	ビ デ オ				
	D V D				
	C D				
資 料 名			仕 様	数 量	備 考
1					
2					
3					
4					
5					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(写真撮影、原板・印画の借用)博物 第年 月 号日
平成

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)		1 写真原板使用 2 撮 影 3 掲 載			
日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	区分事項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テ レ ビ				
	ビ デ オ				
	D V D				
	C D				
資 料 名		仕 様	数 量	備 考	
1					
2					
3					
4					
5					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： (印)
 団体名：
 (担当者氏名)
 住所 (〒)
 TEL: fax:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(複製品の製作)博物 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。 納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： ㊞

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(原資料等の閲覧)

博物 第
平成 年 月 号
日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： ㊞

団体名：

(担当者氏名)

住所 (〒)

TEL: fax:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)		1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他		
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 (時) (時)		
行 事 名				参加人員
目的				
資 料 名		数 量	備 考	
1				
2				
3				
4				
5				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)

博物 第年
平成 年

号日
月

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他	行事名	
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 (時) (時)		
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館年報 No.38

2005年6月29日

編集・発行：沖縄県立博物館

住所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

ホームページ：<http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>

印刷：有限会社 トヨサキ印刷

住所：〒901-0211 豊見城市字饒波1023-2

TEL 098-840-6644

○この刊行物は、278,250円の経費により1,000部作成しました。

○この刊行物の企画は沖縄県立博物館が行い、印刷・製本は上記の印刷業者への委託により製作しております。

2005年度沖縄県立博物館年間行事一覧

- 閉館記念特別展 2006年2月14日（火）～3月12日（日）
柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展
- パネル展
博物館を知ろう 5月10日（火）～5月22日（日）
- 企画展
新収蔵品展 7月5日（火）～7月24日（日）
- 文化講座
「家譜に見る絵師の世界」 平川信幸（沖縄県立博物館学芸員） 5月21日（土）
「近世琉球の社会生活史」 豊見山和行（琉球大学教授） 6月18日（土）
「沖縄出土の輸入陶磁器」 新垣力（教育長文化課専門員） 7月16日（土）
「空手道の伝来の謎を解く」 金城昭夫（太極武道館館長） 9月17日（土）
「サンゴ礁：生物が創り出す美しい世界」 西平守孝（名桜大学教授） 8月21日（土）
「沖縄・博物館ものがたり」 園原謙（文化施設建設室博物館班主任学芸員） 11月3日（木）
「グスク巡り－北部地区－」 當眞嗣一（前沖縄県立博物館長） 12月17日（土）
「中城御殿の美術工芸」 真栄平房敬（那覇市文化財臨時審議委員） 1月21日（土）
- 博物館シアター（会場：博物館講堂、午前10時～、午後2時～、1日2回上映、入場無料）
子ども映画館 ◎安寿と厨子王丸 5月7日（土）
平和について考える ◎沖縄戦未来への証言 6月11日（土）
終戦60年特別映写会 ◎映像で見る終戦直後の沖縄の人々 6月19日（日）
映画で語り継ぐ昭和 ◎ホタル 7月2日（土）
夏休み「子ども映画館」 ◎象のいない動物園 8月6日（土）
沖縄伝統工芸の世界 ◎壺屋の陶器～金城次郎～ ◎宮古上布 9月3日（土）
映像で見る戦前の沖縄 ◎琉球の民藝、琉球の風物、海の民、戦前の沖縄 10月1日（土）
沖縄伝統芸能の世界Ⅰ ◎組踊「花壳の縁」 ◎組踊「孝行之巻」 11月5日（土）
沖縄伝統工芸の世界Ⅱ ◎御冠船踊 ◎二童敵討 1月7日（土）
- 博物館体験学習教室（定員あり）
「石うすを使って豆腐をつくろう」（教育関係者、一般対象） 5月28日（土）
「竹で民具をつくろう」（児童、一般対象） 6月25日（土）
「化石のレプリカをつくろう」（児童対象） 8月13日（土）
「はりこのおもちゃをつくろう」（児童対象） 10月29日（土）
「木の実でおもちゃをつくろう」（教育関係者、一般対象） 11月19日（土）
「サトウキビをしづって黒糖をつくろう」（教育関係者、一般対象） 1月28日（土）
- 移動博物館（渡嘉敷村開催） 2005年11月25日（金）～26日（土）